全視情協会員専用ページ　掲示板「点訳・点字」に寄せられた点訳に関するＱ＆Ａ　まとめ

2013 年 9 月 28 日～2015 年 8 月 27 日

目　　次

第２章　語の書き表し方

その１　仮名遣い

Ｑ１　「媼」は「オーナ」「オウナ」？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ｑ２　「ｏｈー」の書き方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ｑ３　「ぎいいいいいいえええええええええええええ」　・・・・・・・・・・・・　2

その２　数字

Ｑ４　「アルコールゼロ」の「ゼロ」は数字？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ｑ５　「９・11」「３・11」の書き方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ｑ６　建物名称「ノースビー６．１０」の書き方　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

Ｑ７　「０１０１流行館」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

Ｑ８　「関八州」「八州回り」「八州様」などの「八州」　・・・・・・・・・・・・・　5

Ｑ９　パソコンのＯＳ等バージョンの書き方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

その３　アルファベット

Ｑ10　「ＤＥ愛隊」「ＵＳＡ☆宇佐」など英語が混じった言葉　・・・・・・・・・　6

Ｑ11　法人名「ＤＡＩＳＹ　ＴＯＫＹＯ」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

Ｑ12　英語記号「アポストロフィ」の役割

VIPs，B’z の書き方は？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

３章 分かち書き

その１　自立語と付属語

Ｑ13　「５列前の」を「５=レツ■マエノ」と区切るのは？　・・・・・・・・・・　8

その２　複合語

Ｑ14　「我が子びいき」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

Ｑ15　「悲しみで目の前が真っ暗になる」の「目の前」　・・・・・・・・・・・・・　9

Ｑ16　「右」がつく言葉　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

Ｑ17　「軽ワンボックスカー」「自家製麺」「牛スネ肉」　・・・・・・・・・・・・・　10

Ｑ18　「収容所」「収容所長」「収容所内」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

Ｑ19　「佐賀酒」「窓乃梅酒造」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

Ｑ20　「佐賀酒ものがたり」の切れ続き　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

Ｑ21　プラやナビなど省略された２拍の外来語を含む複合語　・・・・・・・・・・　14

Ｑ22　「市町」は「シチョー」？「シ■チョー」？　・・・・・・・・・・・・・・・　14

Q23　「左右する」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
Q24　「そうそう」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

その３　固有名詞

Q25　「さかなクンさん」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
Q26　「祥雲尼様」「祥雲様」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
Q27　「洞ケ峠」は「ホラガトーゲ」？「ホラガ■トーゲ」？　・・・・・・・・・　17
Q28　「博多津」は「ハカタノ■ツ」？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17
Q29　聖路加病院（ルカとルビ）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17
Q30　「願成就院」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

第４章　記号類の使い方

その２　囲みの記号

Q31　第1章■副島種臣略伝■〈斎藤洋子〉の書き方　・・・・・・・・・・・・・・　18
Q32　『週刊○○』2003年11月号 や『月刊○○』参照 の書き方　・・・・・・・　19
Q33　同音異義語の表記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
Q34　段落挿入符の行末処理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

その４　その他の記号類

Q35　文中注記符をつけた語句の説明を書く時の区切り線　・・・・・・・・・・・　21
Q36　一般書の中の空欄も空欄符号？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
Q37　＃と数字とアルファベットが混在しているとき　・・・・・・・・・・・・・　22

その５　記号が連続する場合の注意

Q38　タイトルに「。」「!」がつく場合、2マスあけて（(つづき)）？　・・・・・　23
Q39　二重カギの中に第1カギの開きが続く場合　・・・・・・・・・・・・・・・　23
Q40　タイトルの最後に句点がつく場合の小見出し符　・・・・・・・・・・・・・　24

その６　特別な配慮を必要とする記号類

Q41　泉佐野市・近江八幡市間の中点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
Q42　国際電話の「+」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25
Q43　①「℃-ute」や「アイドリング！！！」の書き方
②ネットスラングで使われる「ｗ」の扱い
③サイト名の「。」
④メールの返信の行頭の「＞」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
Q44　「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」「。。。。。。」「、、、、、、、」「、。」「J:COM」の書き方
・・・・・・・・・・・・・・　28

その７　体系の異なる点字表記

Ｑ45　外国語引用符の中のスラッシュ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

Ｑ46　小説中のデータ情報などの表記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

Ｑ47　一般書に挿入された英語以外の外国語の表記　・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

Ｑ48　ホームページアドレスの１行目の最後は？　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

Ｑ49　理数関係では「O■ガタ」一般書では「O＝ガタ」？　・・・・・・・・・・・・ 31

第５章　書き方の形式

その１　本文の書き方

Ｑ50　引用文のあとの次行行頭の「と」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

Ｑ51　① 書き出しと行替えは原本どおり？

② メールの引用部分の表記は？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

Ｑ52　挿入文のあとの１行あけが次ページの１行目にきた場合　・・・・・・・・・ 34

Ｑ53　続けて書かれた箇条書きの項目の間のマスあけは？　・・・・・・・・・・・・ 34

Ｑ54　「大吟醸■極醸■喜多屋」の１字分の空白　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

Ｑ55　出典などの書名・著者・出版社との間のマスあけ　・・・・・・・・・・・・・ 35

Ｑ56　「アナグラム」の書き方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

その２　見出しの書き方

Ｑ57　カギ類がついた見出しも、小見出し符を付けてよい？　・・・・・・・・・・ 37

Ｑ58　複数の出典の書き方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

その４　図や表の書き方

Ｑ59　表やグラフを書くとき、項目の順を変えてもいい？

表は必ずワクで囲む？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

その５　ルビやマークなどの書き方

Ｑ60　何度も出てくる漢字のルビ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

Ｑ61　漢字に外国語のルビがついている場合　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

Ｑ62　エイプリルフールに“April fool”とルビが振ってあるときは？

日付がはっきりしている時事についての誤り　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

Ｑ63　本文の見出しにルビがあり、目次にない場合　・・・・・・・・・・・・・・・ 41

その６　本文以外の割り付け

Ｑ64　「まえがきなどが本文の内容と連続性が強い場合」の判断　・・・・・・・・ 41

Q65　目次が２ページのときのページ行の書き方　・・・・・・・・・・・・・・・・　42
Q66　点訳書凡例がまえがきの前にきたとき　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43
Q67　シリーズ名がない場合の標題紙の枠線の位置　・・・・・・・・・・・・・・　43
Q68　ＴＲＣが長い場合の標題紙　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43
Q69　見出しとページ数の間が二マス・３マス・４マスのとき　・・・・・・・・・　44
Q70　見出しとページ数の間が３マスのとき　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　45
Q71　①見出しが２行になる時、１行目は２７マス目まで？
②１行目の最後に副題の棒線だけ書いてもよい？　・・・・・・・・・・・・・　45
Q72　点訳書の目次は原本どおり？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46
Q73　見出しのない項目の目次への掲載は？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47
Q74　数字だけの見出しのときの目次　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47
Q75　短編小説の２巻以降の目次　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
Q76　① 原本の表紙・奥付・ＴＲＣの記載が異なるとき
② 編集委員会の記載の方法が原本の表紙・奥付・TRCで異なるとき
③「指導者ハンドブック第５章編」の例題と原本の郵便番号が異なるが誤植？
④ 叢書名が二つあるとき
⑤ 奥付に複数のホームページアドレスが記載されているとき　・・・・・・・　48
Q77　原本奥付にない副書名は？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　50
Q78　平成二十五年六月発行 発行円覚寺 と書かれた奥付は？　・・・・・・・・・　50
Q79　書名と巻次・版・各巻書名などの間のマスあけ　・・・・・・・・・・・・・　51
Q80　原本の表紙だけにある著者の肩書き　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
Q81　韓国の人名の書き方は　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
Q82　太字で書かれている文章の扱い　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
Q83　索引の書き方は？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　53
Q84　小説の最後に書かれた注意書きを書く場所は？　・・・・・・・・・・・・・　54

参考資料

Q85　お勧めの古文の点訳のテキストは？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　54
Q86　「MB（メガバイト）」のＢは小文字では？　・・・・・・・・・・・・・・・　55
Q87　BMＩの単位の表し方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　55

全視情協会員専用ページ掲示板「点訳・点字」に寄せられた

点訳に関するＱ＆Ａ まとめ

2013年9月28日～2015年8月27日

※『点訳のてびき第３版』『日本点字表記法2001年版』『点訳のてびき第３版Ｑ＆Ａ』『同第２集』『点訳のてびき第３版指導者ハンドブック』『点字表記辞典』などの書名、また『点訳者のための点字表記検索システム 点訳ナビゲーター』の名称は略記してあります。

※ 英語点字の表記は2016年４月から変更になります。この資料ではそれぞれ質問された時点での回答を掲載していますが、これについては《Ｑ９》の回答などをご参照ください。

第２章　語の書き表し方

その１　仮名遣い

《Ｑ１》

語の書き表し方について教えてください。

「媼」は「オーナ」「オウナ」どちらでしょうか？

現代文の中に出てくるので、「オーナ」と思ったのですが、ボランティアの方は「おうな」とルビがあるので「オウナ」にしたいということでした。

《Ａ》

お考えの通り、現代文では「オーナ」と書きます。

ボランティアの方には、「漢字を仮名にしたときに、『う』となるのびる音（長音）は、点字では長音符で表します。『王子』も仮名にすれば『おうじ』ですけれど長音符で表しますね」のように説明されたらいかがでしょうか。

《Ｑ２》

墨字で、英語の感動詞「ｏｈ」の後ろに長音の記号が続いている表記が出てきました。この場合、どう点訳しますか。

「ｏｈ」は単語ですから、外引符になりますね。外引符を閉じた後は、つなぎ符 or マスあけして長音符？ ルール的にはこのいずれかしかない？ どちらも妙な感じがします。

ほかに考えられる表記はありますか。

《Ａ》

この前後の文脈はどうなっているのでしょうか？

「ｏｈ」だけが英語で、前後が日本語の会話文のようになっていると想定して点訳の方法を考えてみます。

ｏｈ－

のようになっているのですね。

ひとつは、「ｏｈ」にすでに長音の要素が含まれていて、それを視覚的に強調するために長音が使われていると考えて、墨字の長音記号は省略して
引ｏｈ引
と書く方法があると思います。
そのほか、「おう」だけでなく「おおう」のように更に強調して発音すると考えれば、「引ｏｏｈ引」「引ｏｈｏ引」として、長音の表現までを外国語引用符の中で処理する方法も考えられますが、「ｏｈ」に関してだけで、どの語にもあてはまるわけではありません。
または、「オオー」と読みを仮名で書いて、「ｏｈ」をカッコ内に入れる方法もあるかもしれません。
「オオー（引ｏｈ引）」
いずれにしても、外国語引用符を閉じた後に、第１つなぎ符を入れて長音符を書くことや、マスあけして長音符だけを書くことはできません。

《Ｑ３》
語の書き表し方について、ご質問です。
小説に出てくるセリフや擬音語で、「ぎいいいいいいいえええええええええええええ」や「きいいいいいいいいいいいいいいいい」とあった場合、どの様な書き表し方が最適でしょうか？
「指導者ハンドブック第２章編」p17 の「があああああああああん」は一続きに書いてあったのですが、上記の例のようにものすごく長い語句でも続けて書いてよいでしょうか？マスあけを入れるにしても、どこで入れたらよいのか見当がつきません。

《Ａ》
このように同じ文字が長く書いてあった場合、区切り目がありませんので、一続きに書きます。
ただ、原本の通りの文字数を入れるかどうかは考えるところです。
この程度なら、１行に納まりますので、原本通りに書いてもよいかもしれませんが、２行、３行にもわたって書いてあるとき、同じ文字数を書かなくても、点訳では１行程度に納め、長く書いてあることが伝わればよい場合が多いのではないでしょうか。
原本の種類にもよると思いますので、その辺りは適切な処理をお願いします。

その２　数字
《Ｑ４》
「ゼロ」の表し方について
無いという意味の場合は、仮名でゼロと点訳すると判断しております。
「アルコールゼロ」は、アルコールが入っていないと考えればゼロだし、割合の数値と考えると数０のような気もして迷ってしまいます。
この場合は、どちらを使うほうが良いでしょうか。
また、もし原本が「アルコール０」と、数字で表されているときには、そのまま無条件

に数符を使ってもいいのでしょうか？

《A》

「ゼロ、零、レイ、０」は、原文が仮名、数字に関わらず、順序や数量の意味があるかどうかで、数字で書くか、仮名で書くかを判断します。

その上で、読みが「ゼロ」であることをどうしても示したい場合は、「てびき」p26、３．の＜処理＞に倣って、読みをカッコ類で囲んで書くことができると思います。

「アルコールゼロ」は数量的な意味合いだと思いますので、数字を用いて「アルコール■０」と書くと思います。

《Ｑ５》

ボランティアの方からの質問なのですが、広く一般に知られている出来事（震災やテロ事件）などを表していると思われる場合の日付の書き方を、認知されているということを基準に中点をとり、続けて書くという事はできるでしょうか？

また、全視情協掲示板の「点訳に関するＱ＆Ａまとめ」の p4Ｑ８についてです。

《Q》「9・11」「3・11」など、原文にルビが付いていない場合の日付の書き方は、どのようにすればよいでしょうか。

① 数９・■数 11　数３・■数 11

② 数９■数 11　　数３■数 11

③ 数９数 11　　数３数 11

④ ②③の後に続けて点訳者挿入符で「キューテン■イチイチ」「サンテン■イチイチ」と書き加える。

《A》「９・11」や「３・11」などと、原文で月日が略記されている場合は、中点を用いることはできません。「数９■数 11」「数３■数 11」 と書くのが一般的です。

「９・11 事件」のようになれば、「てびき」p23（２）より、「数９数 11■ジケン」と書いてよいと思います。

また、読み方を指定するようなルビが付いていないのであれば、わざわざ点訳者挿入符で読みを付けなくてよいと思います。

月日の書き方には、他の方法もありますので、「てびき」p62「年月日・時間などの書き方」も参照してください。

数字の読みの指定については、「てびき」第２章 p26 の「コラム」も参考になると思います。

この答えは、「後ろに事件やテロなどの言葉がなく、単に日付だけならば、『数９■数１１』のように中点を取り一マスあける」ということかと思います。

次のような例でもやはり「数３■数１１」と単なる日付の扱いとして、一マスあけになるのですか？

〈以下は原文どおりに中点を付けています〉

(1)　これはこの国の宿命なのか？　３・１１直前と似てきたと専門家達が心配している。

(2)　私達は３・１１を忘れない。

(3)　映画というメディアを通じ、３・１１以降の社会を話し合いましょう。

「３・１１」はもう認知されているとして続けるのはダメでしょうか？「認知されているかどうか」というのは判断基準にはならないのでしょうか？

《A》

ご質問の中に、「てびき」p62 コラムにあるような、一般的な月日の略記と、p23（２）の１語として扱われる月日の省略が、混じっているように思われます。

以前の回答が言葉足らずで、誤解を生んでしまったようです。失礼いたしました。

2001 年９月 11 日のアメリカのテロ事件を指す「９・１１」の場合は、「９・１１事件」でも、単に「９・１１」でも、「数９数１１」と書いてよいと思います。「３・１１」も同じです。「５・１５」や「２・２６」といった場合も、文脈上、あの事件という特定のできごとを指す場合は、「数５数１５」「数２数２６」と書きます。

ただ、毎年、９月１１日、５月１５日はあります。

５月１５日　　定期総会

９月１１日　　理事会

などのような場合の略記には、「数５■数１５」が最も一般的ですが、そのほかにも p62 に示したような書き方があります。

『月日の略記にはいろいろな方法がありますが、そのなかで、特定の事件、「あのできごと」と言えるものを指す場合や、後ろに「事件」や「テロ」などが付いて複合名詞の扱いになる場合には、一続きに書いてよいでしょう』

と説明すれば、誤解がないのかもしれません。

ご質問の「３・１１」は、東日本大震災のことを表していると思われるので、「数３数１１」でよいと思います。

《Ｑ６》

広報誌の点訳で、６条１０丁目にある「ノースビー６．１０」という建物名称がでてきました。点訳者が「ノースビー６１０」と点訳してきたのですが、この場合、「６１０」の意味が６条１０丁目に由来し、「６．１０」と間がありますので「数６数１０」とした方が良いのか、句読点をそのまま入れた方が良いのか、調べてもよくわからなく、ご質問させていただきました。よろしくお願いいたします。

《A》

インターネットで検索してみましたら、「ノースビー６・５」というアパート名がありました。やはり６条５丁目にあるようです。この場合は、中点が用いられていました。

「ノースビー６．１０」も、６と１０の間が中点の可能性もあると思います。

中点でも、ピリオドでも、この場合は、句読符としての役割ではなく、１語の中の区切りとして使われていますので、「数６数１０」がよいのではないかと思います。

《Ｑ７》
　数字の書き方について
　０１０１流行館というファッションビルもあった。「丸井」ではなく、「ゼロ・イチ・ゼロ・イチ」と読ませるようで、日本の丸井とは関係がないらしい。
という文章です。中国の話です。
　「数符０１０１」「ゼロ■イチ■ゼロ■イチ」でよろしいでしょうか？

《Ａ》
　お考えの通りでよいと思います。ビルの名前ですが、後ろに読みかたも書いてあるので、数符を用いて書いた方がわかりやすいと思います。

《Ｑ８》
　「関八州」「八州回り」「八州様」などの「八州」は数字で書くべきでしょうか。または仮名で書くべきでしょうか。
　私としては、「関八州」は江戸時代の関東８か国（相模・武蔵・安房・上総・下総・常陸・上野・下野）の総称ということから固有名詞と考え、「四国」や「九州」のように仮名で書くと考えておりました。
　同じく、「八州回り」も、江戸幕府の「関東取締出役」という役職の別名であるため、数字的な要素もないと思い、仮名で「ハッシュー」と書いてよいと考えておりました。
　一方、「八州」は関東８か国のことを指すのだから、数字を使い「数８シュー」と書くという意見もあります。
　この辺、考えれば考えるほど迷ってしまいます。

《Ａ》
　「関八州」はあきらかに関東８カ国のことを表していますので、数字で書いて良いと思います。
　「八州廻り」や「八州様」もそこから由来した役職名ですので、数字で良いのではないでしょうか。

《Ｑ９》
　パソコンのＯＳ等バージョンの点字表記を御教示ください。
　Ｗｉｎｄｏｗｓ8.1　　ｉＯＳ3.1.2　　ｉＯＳ4.ｘ　など、一般書や広報紙での点訳方法に迷っております。
　サピエ登録上のデータでは、数字の部分で小数点（④⑥の点、または②の点）を使う、またはピリオドの後、続けて、または、一マスあける等が見受けられます。

《Ａ》
　バージョンの数字の書き方は、「Ｑ＆Ａ第２集」Ｑ９で、「習慣上、小数点を用いて書いています」とお答えしています。
　(1) Ｗｉｎｄｏｗｓ８.1　は、 引大Ｗｉｎｄｏｗｓ引■数８②１

(2)　ｉＯＳ3.1.2　は、 外ｉ大大ＯＳ■数３②１②２
と書いていいと思います。
　ただ、ｉＯＳ４.ｘ　とアルファベットが入っている場合、小数点の後ろは数字と決まっているので、小数点を使うことができません。
　そこで、「．」の部分に②⑤⑥の点を用い、
(3) 外ｉ大大ＯＳ■数４②⑤⑥フ
と書けばいいのではないかと思います。
　この「.」の書き方は「表記法」に規定がなく、便宜的に書いているものですので、(1) (2) と (3) が、同じ資料の中に出てきて不統一になることが気になる場合は
(1) Ｗｉｎｄｏｗｓ８.1　を、 引大Ｗｉｎｄｏｗｓ引■数８②⑤⑥１
(2)　ｉＯＳ3.1.2　を、 外ｉ大大ＯＳ■数３②⑤⑥１②⑤⑥２
と書くこともできます。
　なお、英語点字の表記が、一般書でも 2016 年４月から変更になります。小数点が④⑥の点ではなく、②⑤⑥の点になりますので、これからこのような点訳をされる場合は、④⑥の点は避けた方がいいかもしれません。
　来年度からの一般書の英語点字表記については、12 月に行う点字担当者研修会までには、全視情協点訳委員会として、点字担当者の方に使っていただけるような資料を作成する予定です。

その３　アルファベット

《Ｑ10》
　英語が混じった商品名などの表し方について質問します。
　『「ご当地もの」と日本人』という本ですが、次のような名前が出てきます。
　横手焼きそばサンライ'S
　愛ｂリーグ（ｂは、Ｂ-１グランプリのＢからきています）
　南魚沼きりざいＤＥ愛隊
　ＵＳＡ☆宇佐からあげ合衆国
　秘密のケンミンＳＨＯＷ

　'S は、「サンライ引'S 引」
　愛ｂリーグ　「アイ外ｂ■リーグ」
　ＤＥ愛隊　「引大大ＤＥ引③⑥アイタイ」
　ＵＳＡ☆宇佐　「外大大ＵＳＡ■ウサ」
　ケンミンＳＨＯＷ　「ケンミン引大大ＳＨＯＷ引」
と考えました。
　たとえば、「ＤＥ愛隊」は、「出会いたい」とかけていて、筆者は「デアイタイ」と読ませたいし、「ＵＳＡ」は「宇佐」とかけていると思うのですが、「Ｑ＆Ａ第２集」に出てくる　抹茶ｄｅアイス＝「マッチャ■引ｄｅ引■アイス」の例のように、外国語の部分は、そのまま点訳すればよいと判断していいでしょうか。
　上記の点訳で、外国語との間をマスあけするか続けるかの判断も迷っています。

《A》

このように特殊な書き方の場合、原文の表記を重視するか、読みを重視するかは、原本の種類にもよりますし、また、個々の表記の分かりやすさにもよると思います。

「抹茶ｄｅアイス」の場合は、読みにも影響しませんし、原文の雰囲気も伝えられると思いますので、「マッチャ■引ｄｅ引■アイス」と書いてよいと思います。

ご質問の語の中で、「愛ｂリーグ」「ケンミンＳＨＯＷ」は、原文の表記のとおりに書いても読みに影響しませんので、原文のとおりに書いてよいのではないでしょうか。

愛ｂリーグ　「アイ外ｂ■リーグ」

ケンミンＳＨＯＷ　「ケンミン引大大ＳＨＯＷ引」

また、「ＵＳＡ☆宇佐」も☆をマスあけに変えて原文の表記を活かして良いと思います。「ＵＳＡ」の発音は、「ユーエスエイ」なら外字符ですし、「ウサ」なら外国語引用符ですが、「ＵＳＡ☆宇佐からあげ合衆国」は、「ウサ」ではないでしょうか？

「引大大ＵＳＡ引■ウサ」と思いますが、はっきりしませんので、なお、調査していただければと思います。

「横手焼きそばサンライ'S」は、「’ｓ」を外国語引用符で囲んで書くと読みにくいと思いますので、「ヨコテ■ヤキソバ■サンライズ」と読みを書いた上で、原本の種類や、出現頻度などによっては、点訳者挿入符で「原文はアポストロフィｓ」などと説明を加えてはどうでしょうか。

「南魚沼きりざいＤＥ愛隊」は、意見が分かれるかもしれませんが、「デアイタイ」と点訳した上で、必要なら「デはＤＥ」と説明を加えるのが一般的な方法と言えると思います。

ただ、この原本が「ご当地もの」を採りあげた本ということを考えると、原文どおりの表記の方が雰囲気を伝えるかもしれません。

すべて、点訳するのに迷いそうな語例ですので、検討の上、いくつかを「点訳ナビゲーター」の語例として掲載したいと思いました。

《Q11》

「ＤＡＩＳＹ　ＴＯＫＹＯ」という法人名がありますが、これは、やはり 外大大ＤＡＩＳＹ■引大大ＴＯＫＹＯ引 と書き表すのでしょうか？

なんだかとても不思議な気持ちになるのです。

すべてを外引符でくるんではだめなのでしょうか？

《A》

「表記法」などで規則化されているわけではありませんが、このようにマスあけを含んでいてもひとまとまりの語句であれば、まとめて外国語引用符で囲んで書き表してよいと思います。

「Ｑ＆Ａ」Q17には「ＵＳＡ－ＴＯＤＡＹ」の例があり、外国語引用符で囲んでいます。この場合はハイフンで繋がれているので、より一語の感覚が強いと思いますが、「ＤＡＩＳＹ　ＴＯＫＹＯ」もひとまとまりの法人名ですので、引大大ＤＡＩＳＹ■大大ＴＯＫＹＯ引 でよいと思います。

《Q12》
アルファベットの書き方について教えてください。
「Q＆A第２集」のQ25 に、「英語点字では、ＶＩＰｓを、引大大ＶＩＰ③ｓ引 と、ｓの前にアポストロフィを付けて書きます」とありますが、この「アポストロフィ」の意味は、ここから小文字符になるというサインとして使われているのでしょうか？
そして、原本が「ＶＩＰ’ｓ」のように、もともとアポストロフィがついている場合には、どのように表記したらいいでしょうか？　ｓの前に終止符を入れますか？
グループ名の「Ｂ’z」は、引大Ｂ③z 引 では、間違いになりますか？

《A》
アポストロフィは、英語の記号として、短縮形で文字の省略を表したり、所有格を表したり、いろいろな役割をしています。
複数形を表すときに、最後にｓを付けますが、文字・数字・略称の複数形にはアポストロフィｓを付けるのが正式な書き方です。
ＶＩＰ、ＣＤなどについている「’ｓ」は、複数形を表します。
墨字ではこれが省略されて、単に、ＶＩＰｓ、ＣＤｓのようになっている場合が多いので、点訳するときに忘れずに、ここに「アポストロフィ」を入れましょうという注意を「Q＆A第２集」Q25 に書きました。
原文に、アポストロフィがついている場合は、そのまま点訳します。
グループ名の「Ｂ’z」は、引大Ｂ③z 引 と書きます。
なお、現在の米国の点字は、ルールが改定されていますが、以前にも書きましたように、全視情協点訳委員会では、英語点字の書き方は「初歩から学ぶ英語点訳　四訂版」に従うことにしていますので、このルールを適用してください。
「初歩から学ぶ英語点訳　四訂版」p112～p114 に詳しい説明が載っていますので参照してくださるようお願いいたします。

第３章　分かち書き

その１　自立語と付属語

《Q13》
時間の「前」と場所の「前」のマスあけについて、「Q＆A第２集」Q34 には「習慣としてそれぞれ使い分けをしている」とありました。点訳ナビゲーターでは、「図書館前」は続き、「５列前の～」は「５=レツ■マエノ」と区切っていました。「５列前」は「場所を示す」ということには適用されていないのでしょうか？

《A》
「前」を国語辞典で引いてみると、辞典によっていろいろな分類法がありますが、
１．自然に顔を向けている方　「前へ進む」「前に高い山がそびえている」
２．そのものの正面だと捉えられる位置に面する側　「机の前に座る」「家の前」
３．問題とする事柄が起きたり行われたりしたより早い時点　「結婚する前に」「発車

数秒前に飛び乗った」
　４．何らかの基準に従って並ぶものについて、その配列順位が比較の対象とするものより早いこと　「彼は私より３人前に並んでいた」「一番前の席が取れた」
　そのほか、造語要素や接尾語としての用法や、もっと細かい分類もあります。
　この中で、場所的な「前」は２．の用法で、時間的な「前」は３．の用法になります。
　「５列前の」は、４．の用法で、辞書によっては、３．の用法の一つとして書かれているものもあります。
　これらのことから、「５=レツ■マエノ」としました。

その２　複合語

《Q14》

　「我が子」の場合、「ワガ■コ」となりますが、その後ろに連濁の「びいき」がつく場合も、「ワガ■コビイキ」となるのでしょうか。意味のまとまりを考えると、「ワガコビイキ」とすべて続けたくなるのですが。

《A》

　「ワガ■コビイキ」となります。
　後ろに連濁の語が続く場合もそうですが、接尾語や造語要素、２拍以下の自立性の弱い語が付く場合なども、そこだけを取り出すとなじまない言葉になる場合がありますが、多くは分かち書きの原則に従います。
　ただ、短い語からなる慣用句や意味のまとまりが強い場合などは、すべて続けて書く場合もあります。
　「あるときばらい」「いいことずくめ」「そのひぐらし」などは、よく使われていて意味のまとまりが強い語だと思います。
　「わが子びいき」「我が師頼り」「悪い子ぶる」などは、慣用的に使われている言葉ではないので、原則に従って区切って書くことになります。
　「ワガ■コビイキ」「ワガ■シダヨリ」「ワルイ■コブル」となります。

《Q15》

　「目の前」の切れ続きについてお尋ねします。
　「Ｑ＆Ａ」Q34 に《Q》で場所を示す「目の前」は区切り、時間的な「目前」の場合は続ける傾向にあると記述があります。
　「悲しみで目の前が真っ暗になる」という文章ではどうなりますか？ 実際に視界が暗くなるわけではなく、比喩的な表現です。
　「Ｑ＆Ａ」Q34 にあるように、助詞を入れても前と後ろの語句の意味は変わりませんし、時間の「目前」には当てはまりません。区切って書いてよいと思うのですが、いかがでしょうか。

《A》

　「目の前」の切れ続きについて、お考えの通りでよいと思います。

「メノ■マエ」と区切って書きます。

《Ｑ16》

「右」がつく言葉についてお尋ねします。

本来は和語２拍だから続けることが原則ですが、発音上の切れ目（「Ｑ＆Ａ」Q44）や、意味の理解を助ける（「てびき」p45【備考２】）の場合には「右■半分」のように切れると判断しています。

最近「右足首」「右手首」「右太もも」「右わき腹」などが出てきてしまい、これらの言葉は原則の和語２拍だから続けると判断するのか、発音上の切れ目があるから区切ると判断するのか、迷ってしまいました。

「右」と「足首」の間に切れ目があると考える人もいるし、意見が分かれています。

これらの例は、どのように判断すればいいでしょうか。教えてください。

《Ａ》

切れ続きの部分で、すっきりとはお答えできないところです。

まず、「右半分」を区切って書くのは「右」がポイントではなく、「半分」という語がポイントになります。「半分」は、「前」でも「上」でも 「下」でも、「マエ■ハンブン」「ウエ■ハンブン」「シタ■ハンブン」と区切って書きます。

「Ｑ＆Ａ」にあるように、「全体」「平均」「自身」「自体」なども同じような扱いになります。

「指導者ハンドブック第３章編」p30～p31 も参考にしていただければと思います。

一方、医学用語では、「右」は、後ろの身体の部位との切れ目がわかりやすいように、２拍でも、多くは区切って書かれています。

右■肝静脈、右■肝管、右■胸管などです。

「右」は２拍の和語ですので、一般書では、上のような語を除いては、原則に従って、続けて書いて良いと思います。

「わきばら」や「てくび」「ふともも」は、医学用語と判断するのかどうか迷うところですが、一般書の中でしたら、「ミギテクビ」「ミギアシクビ」「ミギフトモモ」「ミギワキバラ」と書いて良いと思います。

《Ｑ17》

切れ続きについて教えてください。

① 軽ワンボックスカー

外来語の判断から、「ワンボックスカー」「ワン■ボックスカー」両方の考え方があるとのことですが、「軽」がついた場合は、「ケイ■ワンボックスカー」または、「ケイ■ワン■ボックスカー」どちらでもよいのでしょうか？

② 自家製麺

自分の家で麺を作ることを表す時は、「ジカ■セイメン」？

自分の家で作った麺を指すときは、「ジカセイメン」「ジカセイ■メン」？となるので

しょうか？

③　牛スネ肉

脛肉が、一般的になっているのではないか？ ということを言われたのですが、「ギュースネニク」「ギュー■スネニク」マスあけしてもよいのでしょうか？

《A》

迷う言葉ばかりですが、点訳委員会の考えを書かせていただきます。

① 軽ワンボックスカー

「ワンボックスカー」は、切れ続きに迷うところですが、「カー」が前の語につく成分ですので、「ワン」で区切るよりは一続きに書いた方がわかりやすいのではないかと思います。

また、「軽」は語頭につく造語要素ですので、原則としては続くことになりますが、発音上の切れ目があると判断して、「ケイ■ワンボックスカー」と書いてよいのではないでしょうか。

②　自家製麺

「自家製麺」の語の成り立ちは、「自家製の麺」だと思います。ですから「ジカセイ■メン」となると思います。

「自家製の麺」の中に、自分の家で製麺するという意味も含まれているのではないでしょうか。

「自家製ジャム」「自家製パン」のような語ですと分かりやすいと思います。

「自家■発電」「自家■中毒」のような言い方とは異なると思いますが、いかがでしょうか。

③　牛スネ肉

「スネニク」で自立可能な意味の成分になると思います。

「牛のすね肉」と考えれば「ギュー■スネニク」でいいと思います。

《Q18》

アウシュビッツ収容所に関する原本で、①収容所　②収容所長　③収容所内　が多く出て来ます。

①を「シューヨージョ」と書く時、②③は各々「シューヨージョチョー」「シューヨージョナイ」でいいでしょうか？

それとも、「シューヨー■ショチョー」「シューヨー■ショナイ」でしょうか？

《A》

一般に、「庶務係長、吾妻山頂、湯沢町長」のように「係、山、町」の部分が重なっているとき、「庶務係（しょむがかり）、吾妻山（あずまやま）、湯沢町（ゆざわまち）」と読んでも、後ろの語に自立性がある場合は、「かかりちょう」「さんちょう」「ちょう

ちょう」の読みを尊重して、「ショム■カカリチョー」「アズマ■サンチョー」「ユザワ■チョーチョー」と書きます。

ですので、この考えを進めれば、「シューヨー■ショチョー」「シューヨー■ショナイ」と書いてよいと思います。

ただ、特に「所内」は、「保健所内」を「ホケンジョナイ」というように、連濁のまま読む読みかたもあると思いますので、どちらも間違いとは言えないと思います。

読みかたは断定が難しいことがありますので、どちらの読みをとるかは、各施設・団体でご判断くださるようお願いします。

《Q19》

「佐賀酒ものがたり」という本を点訳しています。内容は、佐賀の２３の蔵元と支える人々を紹介する酒蔵ガイドブックです。

①「佐賀酒」についての切れ続きの質問です。

「佐賀酒」は複合語になっていて「サガサケ」と続けて書いた方がいいのではという方と、「サガ■サケ」と区切って書いた方がいいという方がいらっしゃいます。どのように考えたらいいのでしょうか？

本文中では例えば「佐賀酒の評判がいい」「佐賀酒・酒蔵」「佐賀酒新時代」･･･ 沢山出てきます。

② 助詞「の」が入った語のマスあけについての質問です。

会社名「窓乃梅（まどのうめ）酒造」はどのように考えたらよろしいでしょうか？ 他に、お酒の銘柄で「花乃酔（はなのよい）」「窓の月」「春の海」「虎乃児（とらのこ）」

国道などの道路に設けられた休憩施設の「道の駅」はどのように考えたらよいでしょうか？「てびき」p41 の【備考】の考え方で 1 語として熟している短い複合語として考えればいいでしょうか？

《A》

① 「佐賀酒」の切れ続きについて

「佐賀酒」は、固有名詞ですけれども、その中身を見ると、「佐賀」という固有の部分と「酒」という普通名詞の部分から成り立っています。

こういうときの切れ続きの考え方ですが、固有の部分はかならず「自立可能な意味の成分」と見ます。

切れ続きの原則は、「自立可能な意味の成分が二つ以上あればその境目で区切る」ですから、相手の普通名詞部分の自立性（３拍以上か、２字２拍の漢語か）によって判断します。

「酒」は和語で２拍ですから、自立可能な意味の成分にはなりません。

ですので、「サガサケ」と続けて書きます。

「佐賀ビール」でしたら「サガ■ビール」となります・

② お酒の銘柄は、基本的には、複合名詞の切れ続きの原則で考えて良いと思います。

「の」が入った場合は、「の」の前後の語の自立性で判断するしかないと思いますので切れ続きには幅が出てくると思います。

「窓の月」「春の海」「窓乃梅」などは、「窓」「春」「月」「海」「梅」など「の」の前後が区切っても分かる語ですので、「マドノ■ツキ」「ハルノ■ウミ」「マドノ■ウメ」とした方が分かりやすいと思いますが、「花乃酔」「虎乃児」となると判断に揺れがあると思います。

「ハナノ■ヨイ」「ハナノヨイ」「トラノ■コ」「トラノコ」どちらも有りそうな気がします。

いずれにしても、お酒の銘柄だからすべて一続きと言うことはなく、それぞれの語句で判断することになります。

「道の駅」は、「ミチノ■エキ」としています。

酒造会社も同様に考えます。「～酒造」は「～■シュゾー」となりますので、「窓乃梅酒造」の場合は「マドノ■ウメ■シュゾー」となります。

《Ｑ20》

前回より引き続きの質問なのですが、「佐賀酒ものがたり」の切れ続きの質問です。

「佐賀酒」は固有名詞と普通名詞の部分から成り立っていて、相手の普通名詞部分の自立性によって判断するということで、「サガサケ」と続けて書くという考え方で「サガサケ■モノガタリ」と考えると思いますが、もしこれが、本文中に「佐賀酒」という語が 1 回も出てこなくて「佐賀酒ものがたり」のみが出てきた場合は、どのように考えたらよろしいでしょうか？

《Ａ》

お答えにとても悩むところです。

これが、「福島酒物語」「秋田酒物語」「新潟酒物語」でしたら、福島の酒物語、新潟の酒物語と考えて、「フクシマ■サケモノガタリ」「アキタ■サケモノガタリ」「ニイガタ■サケモノガタリ」と書くと思います。

「フクシマサケ」「アキタサケ」「ニイガタサケ」とはあまり言わないので、「酒物語」をひとまとまりに考えるからです。

最初のご質問の時、「佐賀酒ものがたり」というタイトルの本を点訳しています、ということでした。

そこで、「佐賀酒」の切れ続きは･･･ということで、あまり耳慣れない表現でしたので、ネットで調べてみました。そうしましたら、「ＳＡＧＡＳＡＫＥ」という佐賀県酒造会社のポータルサイトがあり、「佐賀酒応援団」「佐賀酒グッズ」などの言葉がありましたので、「佐賀酒」は「サガサケ」と一続きに書くとお答えしました。

本の内容も佐賀の酒造会社や銘柄の紹介と言うことでしたし、ネットで本のカバーを見てみましたが、縦書きで右に「佐賀酒」、そのわきにひらがなで「ものがたり」とありました。

また、目次も「佐賀酒新時代へ」という大項目がありましたので、このようなことからも、この本では、「サガサケ■モノガタリ」でいいのではないかと思います。

この本を離れて、いろんな「酒物語」の中の、佐賀の酒物語という文脈で出てきた場合は、「サガ■サケモノガタリ」という書き方もあると思います。
このように、三つ以上の要素がある語は、文脈の中でその切れ続きを判断するとしかお答えの仕様がないような気がします。

《Ｑ21》
省略された、２拍の外来語を含む複合語について
プラ(プラスチック)…プラ素材、プラ鍼管、プラユニット、資源プラ、プラゴミ、プラマーク
ナビ(ナビゲーション)…ナビアプリ、ナビシステム、絵本ナビ、データナビ、西 Navi（ＪＲ西日本おでかけ情報サイト）
デリ(デリカテッセン・デリバリー)…デリ専門店、デリコーナー、こんがりデリ、和デリ、こめデリ、デリぱんシリーズ
など、略された２拍の外来語の切れ続きについて説明できませんでした。
前後の語で、切れ続きが変わりますが、上記の３語は、自立していると判断してもよいのでしょうか。
その基準は「辞書に見出し語として掲載されていること」で、よいのでしょうか？

《Ａ》
省略された外来語についても、その語が日本語の中で一語として使われているかどうかが判断基準となります。「辞書に見出し語として掲載されているかどうか」で判断するのがあくまでも基本ですが、外来語が省略されるスピードは早く、省略形が相当に広まっても、多くの辞書に載っているとは言えないことがありますので、表記には幅が出てくるのもやむを得ないと思います。また、省略形の方が一般的な語もあります。
「プラ」「ナビ」「デリ」は、省略形がよく用いられる、なじみのある語ですので、自立した成分として扱っていいと思います。
プラ■素材、プラ■鍼管、プラ■ユニット、資源■プラ、プラゴミ、プラマーク
ナビアプリ、ナビ■システム、絵本■ナビ、データナビ、ニシ引大 Navi 引
デリ■専門店、デリ■コーナー、こんがり■デリ、和デリ、こめデリ、デリぱん■シリーズ

《Ｑ22》
「市町村」「市区町村」は一続きに「シチョーソン」「シクチョーソン」で問題なかったのですが、市町村合併で「市町」だけになってしまっています。
「シチョー」それとも「シ■チョー」どちらでしょうか？

お住まいの市町村福祉課へお問い合わせください。
お住まいの市町福祉課へお問い合わせください。

些細なことかもしれませんが、どちらにしてもこれでいいのかな、と思ってしまいます。

他に、「市郡」（市郡対抗駅伝、指宿市郡医師会など）は、「シグン」としています。
「区」まである都道府県では、さらに組み合わせが増えるかな、と思いますが、「市町」だけでもはっきりすると安心です。

《Ａ》
「市町」も「市郡」もこの場合は一続きに書いてよいと思います。
シチョー■フクシカ
シグン■タイコー■エキデン
イブスキ■シグン■イシカイ
もし、どうしても「市長」と区別がつかないような場合は、「市と町」などの説明を入れることもあるかもしれません。

《Ｑ23》
「左右する」という言葉の分かち書きについてボランティアの方にご質問をいただきました。

左右する（複合動詞）の処理
テキストのルールにのっとっていけば『左右■する』となるが、「左右する」では、複合動詞になったときの意味が「左右」の本来の意味から外れているので、区切って書いた「さゆう■する」と複合語「左右する」は異なる意味ではないか。
（「左右する」はもとの自立語「左右」とは違った新しい意味を持つに至った複合語。「左右」と「する」を区切ったら複合語でなくなるのでは？）

言葉自体は両方とも似たような言葉ですが、「ルールをわかりやすくするために区切っている」という説明以外に明確な説明の方法があれば教えて下さい。

《Ａ》
「左右する」を「サユー■スル」と区切って書く根拠は、「表記法」の次の規則によります。

名詞や副詞に「する」が続き、一般にサ行変格活用の複合動詞とされているものは、「する」の前を区切って書き表すことを原則とする。

「左右する」は、名詞に「する」が続いてできたサ行変格活用の複合動詞です。ですから、区切って書きます。
なお、「原則とする」となっていて、「区切って書く」と言い切っていないのは、「する」の前が自立性の弱い１字漢語の場合や、連濁した場合には一続きに書くためです。
「する」の前が「左右」「勉強」「変化」「涙」などの自立可能な意味の成分であれば、すべて区切って書きます。
複合語は、もともと「二つ以上の語が結合して、新たな語としての意味・機能を持つよ

うになったもの」ですから、「左右」と「する」が結びついた「左右する」も、当然新たな意味・機能を持つことになります。
　それでも「複合語内部の切れ続き」では、自立可能な意味の成分が二つ以上あれば区切って書くということになります。

《Ｑ24》
　「そうそう」の分かち書きについてです。
　点訳ナビゲーターでは
　「ソー■ソー■ウマクワ■イカナイ」「ソー■ソー■ソノ■トオリ」
　点字表記辞典では
　「ソーソー■イイ■カオモ■デキナイ」「ソーソー■コンナ■コトガ■アッタ」
となっています。
　「早々」であればつながるかとは思いますが、上記は両方とも同じようなニュアンスとなっておりますので、どちらも許容されるということになるのでしょうか。

《Ａ》
　２拍の繰り返し言葉は、「Ｑ＆Ａ」Q61 にあるように、繰り返さなくても文脈上同じ意味で、繰り返すことによって強調している場合は、区切って書きます。
　ですから、「ソー■ソー■イイ■カオモ■デキナイ」「ソー■ソー■コンナ■コトガ■アッタ」となります。
　「ソーソーニ■タイサン■シタ」「カエル■ソーソー」であれば一続きに書きます。
　点訳ナビゲーターは「てびき」に準拠した書き方を示していますので、語の書き表し方、分かち書き・切れ続きについては、点訳ナビゲーターを参照してくださるようお願いします。

その３　固有名詞

《Ｑ25》
　「さかなクンさん」（愛称の「さかなクン」＋さん）について
　一時期話題になった話です。
　この場合の書き表し方は原則ではつなげると思うのですが、本の書き方が「さかなクンじゃなくてさかなクンさんだろ」となっていて、この場合だけは「さん」を切った方がいいのかなと考えています。それでも原則通りにするべきでしょうか。

《Ａ》
　この場合は「さかなクン」が名前と考えて、「サカナクン■サン」と書くのがよいと思います。

《Ｑ26》
　「祥雲尼様」の書き方について
　　尼僧のお名前ですが、お釈迦様と同じ考え方で、一続きに書くのでしょうか？

本文に「祥雲様」と「祥雲尼様」と書いている場合はどうでしょうか？

《Ａ》
普通名詞の後ろに「様」が付く場合は、続けて書きますので、「祥雲尼様」は一続きになります。「祥雲様」は「祥雲■様」となります。

《Ｑ27》
地名・自然名などの書き方について質問いたします。
「洞ケ峠」（ほらがとうげ）なのですが、「Ｑ＆Ａ」Ｑ80「『ケ』『が』の前の語に自立性があると思われても、一般に続けて書いています」とありますが、「ホラガトーゲ」と続けた方がよろしいでしょうか？
それとも、「てびき」p55 ５．の「地名や自然名の中に二つ以上の意味のまとまりがあり、普通名詞の部分が３拍以上であれば、区切り、２拍以下は続けて書く」にしたがって、「ホラガ■トーゲ」と区切った方がいいのでしょうか？

《Ａ》
「洞ヶ峠」は、普通名詞部分が３拍ですし、「洞ヶ峠を極め込む」のように慣用句としても使われているので、「ホラガ■トーゲ」と区切って書いた方が分かりやすいと思います。
「Ｑ＆Ａ」Ｑ80 では、「島・浦」など、主に普通名詞部分が２拍の語の場合について、「ケ」「ガ」は一般に続けていると言っています。
普通名詞部分が３拍になれば、原則として区切って書いてよいと思います。

《Ｑ28》
「博多津」は、「Ｑ＆Ａ」のＱ80 に記載されている「高田馬場」と同じように考え、「ハカタノ■ツ」と切ってよいでしょうか？

《Ａ》
「博多津」は、「Ｑ＆Ａ」Ｑ80 での説明の通り、「ハカタノ■ツ」と区切って書いてよいと思います。
「博多津」と並んで「日本三津」と言われる「坊津」「安濃津」はそれぞれ、「ボーノツ」「アノツ」となります。

《Ｑ29》
聖路加病院（ルカとルビがついています）は、ルカが人名に由来するそうなので、「セイ■ルカ■ビョーイン」と区切って書いてよいのでしょうか？
「セイロカ」と読む時は、「セイロカ」が一般的になっているので続けるのでは？ とも思います。

《Ａ》
「聖路加病院」は、「セイ■ルカ■ビョーイン」と書くことをお勧めします。
「路加」は、外来語に漢字を当てはめた表記で、これで「ルカ」と読みます。「独逸」を「ドイツ」と読むのと同じです。
「聖路加国際病院」のホームページを見ても「St. Luke's」と書いてあります。
「せいろか」と俗称されることもありますが、正式名は「せいるか」となります。
人名の前に、「聖」が付いた形ですので、「セイ■ルカ」でよいと思います。

《Ｑ30》
静岡県伊豆の国市に、「願成就院」という寺院があります。
これは、「ガン■ジョージュイン」と切ってよいでしょうか？
アクセントの切れ目を考えると切れそうな気がしたのですが、「願」が、２拍なので迷いました。

《Ａ》
「ガンジョージュイン」と一続きでいいと思います。
おっしゃるように「願」は２拍ですので、原則通りの切れ続きでいいのではないでしょうか。

第４章　記号類の使い方

その２　囲みの記号

《Ｑ31》
斎藤洋子、森田朋子の二人の共著で書いた「副島種臣」という本があるのですが、目次の中の見出しに下記のようなものがあり、囲み記号の処理をどうすればいいのか教えてください。
例：
第 1 章■副島種臣略伝■〈斎藤洋子〉
第 2 章■外務卿副島種臣■〈森田朋子〉

「てびき」P63　1.の考え方で、原文通り第 2 カギを使って書くか、「Ｑ＆Ａ第２集」Q 73 のように、説明と考えて第 1 カッコを使って前に続けて書くか、挿入と考えて第 1 カッコを使って前を一マスあけるか、どう考えればいいでしょうか？

《Ａ》
この場合の山型カッコは、強調ではありませんので、カギ類は用いない方が良いと思います。また、第１カッコを用いた場合でも前の見出しの説明ではありませんので、見出しに続けて書くことも避けた方が良いと思います。
ここまでは、はっきりと申し上げられることですが、これ以降の処理についてはいくつか考えられます。

まず、本文ではこの執筆者名はどうなっているのでしょうか？
おそらく本文の一番最後にカッコで囲んで書いてあるか、または、見出しの次行行末に書いてあるか、いずれにしても、目次と同じ扱いではないと思います。
とすると、目次だけの問題ですので、この山型カッコが必要かどうかということになります。
一つの方法としては、山型カッコをはずして
第１章■■副島種臣略伝■■斎藤洋子
と書くこともできます。
ただ、この場合、行移しがちょうど執筆者名の前に来てしまった場合、見出しの続きなのかどうかが分かりにくくなるという難点があります。
ですので、無難な方法としては
第１章■■副島種臣略伝■（斎藤洋子）
と、第１カッコで囲むのがよいのではないでしょうか。
その場合、見出しのあと一マスあけでも、カッコがあるので誤読は避けられると思います。

《Ｑ32》
閉じカギの後のマスあけについて、お尋ねします。
閉じカギのあとのマスあけで「新しい文章がくる場合は二マスあける」となっていますが、以下の場合はどうなるのでしょうか。
① 『週刊○○』2003 年 11 月号
雑誌名のあとの出版号数は《閉じカギ■■2003 年～》と、二マスあけて書くのでしょうか？

② 『月刊○○』参照
閉じカギの後に「参照」とつく時、文章の続きとして《閉じカギ■サンショー》と一マスあけで書いていいのでしょうか。
「指導者ハンドブック第５章編」出典の所で《『人間拡張の原理　メディアの理解』後藤和彦～》は、閉じカギの後は一マスあけとなっていたのですが、この例を判断の材料にしてもよいのかどうか迷ったので、ご質問させて頂きました。よろしくお願いいたします。

《Ａ》
この場合の二重カギはいずれも書名を囲むカギですので、そのあとに、著者名、出版年月日などが続く場合は一マスあけでよいと思います。また「参照」も一マスあけで書いて構いません。
カギを閉じた後に新しい文章がくる場合というのは、会話の文を囲むカギ（多くの場合は第１カギです）の場合が多いと思います。
この例のように、書名を囲む二重カギの場合は、うしろに新たな文が来ることはあまりないように思います。
『月刊○○』私はこの月刊誌を愛読している。

のように、新たな文が始まる場合は、二重カギを閉じた後二マスあけます。

書名、著者名、出版号数などが並んでいる場合は、「てびき」p99「二マスあけ」の（２）の（ア）にあてはまるかどうかが問題になりますが、（ア）は、「句読符などの記号類を用いずに･･･」とありますので、書名が二重カギで囲まれていれば、これもあまり心配しなくてもよいと思います。そこで、「ハンドブック」では、カギで囲まれた「書名」と、著者名・発行所などが並んでいるときには一マスあけにしています。

《Ｑ33》

同音異義語の点訳についてお尋ねいたします。

「西の窓辺へお行きなさい」武田鉄矢著　小学館　2013 年 7 月出版　第２章のなかで、坂本竜馬に関する文章が出てきます。

著者（武田鉄矢）が、「龍」と「竜」の字の違いについて、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」で司馬氏が意図的に「竜」の字を使ったという事を力説しています。

文章の中で「龍馬」「竜馬」と二つの漢字を使い分けていて、点訳では「リョーマ」なのですが、その文字の区別が必要に思われます。「竜馬」が 22 か所、「龍馬」が 50 か所程度使用されています。

点訳者挿入符で《りょうまのりょーの字が２種類出てきます。区別するために画数の少ない省略したりょーの字をカッコで囲みました》と文章の区切りのよいところに入れて、（竜）馬と龍馬を区別してはどうかと思いますが、かっこ（　）を使用してよいかどうか、またもっと別の方法があれば、教えていただけますでしょうか。

《Ａ》

ご質問について、点訳委員会の担当者で相談した結果、次のようにお答えします。

2011 年の指導員研修会の質問の中に、小説のある章に、異なる文字の「お能」と「お濃」が同じ場面で何度も登場するがどうしたらよいかというのがありました。

そのときに、章の始めに「この場面にはお能（能力の能）とお濃（濃淡の濃）が登場します。後者のお濃（濃淡の濃）だけを第２カギで囲んで表します」のように点訳者挿入符で断りを入れる。そして、〈お濃〉だけを第２カギで囲んで点訳する。

とお答えして、点字使用の受講者の方に読んでいただき、賛意を得たという経験があります。

ですから、どちらかを囲みの記号で囲むという処理方法がよいと思います。

この場合、記号の用法から考えて、カッコ類ではなくカギ類のほうが適切でしょう。

第１カギでもいいと思いますが、それで不都合がある場合は第２カギがいいのではないかと思います。

「お濃」も、会話の中に出てくるということでしたので、第２カギにしました。

なお、囲みの記号ではなくて、星印としての文中注記符（「てびき」p75(4)）を使用したらどうかという意見もあります。

その本全体としてほかに影響がなければ、点訳者挿入符で断った上で、この記号を使ってもよいと思います。

《Ｑ34》
段落挿入符の行末処理についてお尋ねします。
パソコン点訳で段落挿入符の閉じ記号の前のマスあけが行末に来る場合、マスあけの前の語句から強制改行するとあります。
例えば、『ヤマダ■ハナコ■))』の『ハナコ■))』から強制的に改行させると、『ヤマダ■↲ 』という語句が上の行に残ることになります。
その時、「ヤマダ」の後のマスあけは通常通り削除して、「ヤマダ↲ 」としてよいのでしょうか？それとも、マスあけは残しておくのでしょうか？

《Ａ》
「サピエ図書館」に登録するデータの場合は、「改行マーク、改ページマークの前は、どのような場合もマスあけしない」というルールにしています。ですから、ご質問の場合も、改行マークの前のスペースは削除してください。

その４　その他の記号類

《Ｑ35》
文中注記符をつけた語句の説明を書く時、当館では一マス目から最終マスまで②⑤の点を書いております。
「指導者ハンドブック第４章編」p44 に、「線を引く場合、一マス目から最終マスまでの②⑤の点は、教科書や点字出版物では、脚注の扱いとなりますので、注意しましょう」と書かれてあります。
当館では、一般書のみの点訳ですが、この区切りの線を１０マスに変更したほうがよいのでしょうか？

《Ａ》
現在、全視情協では、区切りの線については、取り決めはありません。
各施設・団体で決めていただき、「サピエ」にアップする場合は、１タイトルの中で使い方が統一されていれば、よいと判断しています。
ただ、点字出版では「点字出版物製作基準」で、詳しく決めていますので、「指導者ハンドブック」では参考までにご紹介しました。
全視情協でもこのような取り決めがあった方がよいかどうか、今後の「てびき」改訂時に検討することになると思います。
ですので、各施設・団体でルールを決め、１タイトル内で使い方が統一されていれば、今あえて変更はしなくてもよいのではないでしょうか。

《Ｑ36》
空欄符号について、お尋ねします。
空欄符号は、一般書の中でも使用可能でしょうか？
例えば、一般書の『菊池先生の「ことばシャワー」の奇跡』（菊池省三ほか著）には、
「そして明日はいつでも（空欄）」

という見出しが出てきます。空欄の所は、「てびき」p77(1)にあるような四角い枠で囲んだものになります。

「てびき」や「指導者ハンドブック」には「空欄符号は学習書や問題集に用いるものです」と記載してありますので、一般書では空欄符号は使わず他の方法を取るべきでしょうか？

他の方法を取るとしたら、伏せ字記号を使用したいと考えていますがいかがでしょうか？

《Ａ》

空欄符号は、その点字資料を読む人が書き入れる必要がある場所を明確に示すための符号です。学習書や試験問題では、問われている箇所を示し、そこに入れる言葉や数字を答えなさいという形になります。

そのほか、例えば、申請書や契約書のような書式を示すときに、

生年月日　　□ネン■□ガツ■□ニチ　（□が空欄符号、■がマスあけ）

のように書いて、空欄符号の所は申請者が記入することを示すためなどに用います。

一般書でも、申請書の書式や健康調査などのようなものを点訳するときには用いることもあると思います。

ご質問の見出しの空欄は、「そこにどんな言葉が入ると思いますか？」とか「いろいろな場合が考えられますね」のようなニュアンスではないかと想像します。

点線でもよいように思いますし、伏せ字記号も考えられると思います。

本文中に、「空欄部には何が入るでしょう」のような文があった場合は、「点線のところには・・・」「××には・・・」のように言い換えれば良いと思います。

《Ｑ37》

ナンバーマーク＃の表し方について教えてください。

ロバート・クレイス著　『容疑者』という本の中に、

証拠物件　＃Ｈ６２１８Ａ

EV＃６２１８Ｂ

というように、＃と数字とアルファベットが混在しているものが出てきます。

これらは、⑤⑥を前置して、クで表すナンバーマークを用いて点訳してもよいのでしょうか？

上記の例だと、

⑤⑥ク大Ｈ数６２１８外大Ａ

外大大EV⑤⑥ク数６２１８外大Ｂ

と表していいのでしょうか？

《Ａ》

ナンバーマークは、「日本点字表記法1990年版」では「必要に応じて用いる付加記号」として、凡例や点訳者挿入符などで断って用いる記号と位置づけられていました。

「表記法2001年版」ではその限定がなくなりましたが、あまり一般的な記号とは言えま

せん。
　読者の中にはこの記号を知らない方もいらっしゃると思います。
　ご質問の例では、ナンバーを表していますので、ナンバーマークを用いても誤りとは言えないと思いますが、記号を用いるとしても、アルファベットの前の外字符とは区別します。
　⑤⑥ク外大Ｈ数６２１８外大Ａ
　外大大ＥＶ■⑤⑥ク数６２１８外大Ｂ
となります。
　ＥＶは何を指しているのか、これだけでは分かりませんが、ナンバーの中には入らないものだと思われます。
　ただ、先にも書きましたように、ナンバーマークは、あまり一般的な記号ではありませんので、この記号を使わずに、「ナンバー、Ｎｏ．～番」などと書き換える方がわかりやすいのではないかと思います。
　または、この記号の部分は省略してもよい場合もあるかと思います。
　英語でもナンバーマークはありますが、一般の文章ではその記号は使わないで、Ｎｏ．と書くのが一般的になっています。(今後、ＵＥＢが導入されると異なってくるかもしれませんが･･･。)
　ご質問の例に合わせて考えると、
　ショーコ■ブッケン■■ナンバー■Ｈ６２１８Ａ
　または、ショーコ■ブッケン■■Ｎｏ．■Ｈ６２１８Ａ
　ＥＶ■ナンバー■６２１８Ｂ
　または、ＥＶ■Ｎｏ．■６２１８Ｂ　　となります。

その５　記号が連続する場合の注意

《Ｑ38》
　２巻以上になる場合、１巻目の最後のタイトルが２巻目も続いている時、点訳者挿入符で((つづき))といれますが、タイトルに「。」「!」がつく場合は、点訳者挿入符の前二マスあけるのでしょうか？

《Ａ》
　この場合も記号間の優先順位に従いますので、句点や感嘆符・疑問符の後は二マスあけて点訳者挿入符を書きます。

《Ｑ39》
　二重カギの中に第１カギ開きが続く場合の書き方について
　『「ロぐせ」を変えるとみるみる運がよくなる！』『話し方を変えると「いいこと」がいっぱいおこる』
　この場合、『　と　「　の間を一マスあけてもよいのでしょうか？
　「てびき」には第１カギを置き換えるとありますが、ベテランの方がおっしゃっていたので、不安になりました。

また、「口ぐせ」の「　」を第２カギに置き換えた場合、後ろの『　　』内の「いいこと」の「　」も同じように置き換えたほうがよいのでしょうか？

《Ａ》
外側の『　　』は、本のタイトルか何かでしょうか？
一概には言えないのですが、外側を第１カギに、中を二重カギまたは第２カギに変えても差し支えないような文脈であれば、点字としてはそれが自然ではないかと思います。
ただ、これが、本のタイトルだったり、この本全体の流れから、『　　』を第１カギに変えるのに不都合があれば、「口ぐせ」を第２カギにします。同じような用法で並んでいますので、「いいこと」も第２カギにするのがいいと思います。
本来なら、まずは第１カギを用い、その中に二重カギや第２カギを用いるのが、点字としては落ち着くと思いますが、点訳の場合は、原本でのカギの使い方にどうしても影響されてしまうのは仕方がないと思います。
その場合でも、二重カギの開き記号に、第１カギの開き記号を続けて書いたり、その間を一マスあけて書いたりすることはできません。
「てびき」p83（４）を参照してください。p83（３）の指示符の場合と勘違いして、一マスあけてしまう方も多いので、注意が必要です。

《Ｑ40》
小見出し符の使い方で、タイトルの最後に句点がつく場合、　記号類の優先順位第１位として句点に続けて書いてよいのでしょうか。

《Ａ》
はい。「てびき」p82【備考２】にありますように、小見出し符類も第１順位（１）と同様に扱いますので、句点に続けて小見出し符を書きます。

その６　特別な配慮を必要とする記号類

《Ｑ41》
中点の使用について
山田・竹下間の話し合い
田中・山本間の意思の疎通
などは人物の並列として中点の使用で良いかと思います。
それに対して、
東京・博多間が４時間かかる。
大連・旅順間は…
という場合は、都市の並列ではなく、範囲を示しますので中点は使用せず、一マスあけで良いのでしょうか？
その場合、
泉佐野市・近江八幡市間
は、マスあけを含みますので分かりにくくなります。

中点を波線の範囲記号に替えてもよろしいのでしょうか。

《Ａ》
この場合の中点は必ず波線に置き換えなければならないということではありませんが、範囲を示していますので、お考えのように波線を用いてよいと思います。

《Ｑ42》
国際電話の「+」の点訳についてお聞きします。
７ヵ国の旅行情報があってホテルの電話番号のトップの「+」は「この番号は国際電話です」という意味のようです。各契約電話会社によってそれぞれナンバーが違うのでこういう書き方をするらしいです。
例）【TEL】+216 71240632
「+」は国際電話であるという表示なので、実際にかけるときは「国際電話会社の識別番号＋国番号＋相手先番号」
契約している電話会社の国際電話番号
216（チュニジア）
71240632（ホテルの電話番号）
とダイヤルするようです。

《Ａ》
この「＋」に対応する記号は定められていませんので、点訳するときに工夫をしなければならないと思います。
この原本には電話番号がたくさんあるようですが、ホテルの電話番号はすべて国際電話でしょうか？
方法としてはいくつか考えられると思います。
１．ホテルの紹介に、国際電話番号も国内の電話番号もある場合
点訳書凡例で断ります。
《電話番号の前に、プラスの表示がある場合は国際電話であることを示します。プラスを「○」で表しました。》
このように断れば、この本だけの記号ですので、「○」は何を用いてもよいのですが、数学記号の「＋」（②⑥の点）がわかりやすいかもしれません。
２．ホテルの紹介が国際電話だけの場合
点訳書凡例で断ります。
《紹介されているホテルの電話番号の前には、国際電話であることを示すプラスの記号が付いていますが、この点訳書では省略しました。》
実際にダイヤルするときには使用しないものですので､断れば省略してよいと思います。
このような方法ではいかがでしょうか。もっとよい工夫もあるかもしれませんが、一例として、参考にしていただければと思います。

《Ｑ43》

最近、現代アイドルグループ・ネット関連の本の点訳をお願いすることが多く、その関連の質問です。

１.「℃-ute」（アイドルグループ名）について

読み方は「キュート」ですので、「てびきＱ＆Ａ」に従えば 引大ｃ-ｕｔｅ引 になるのでしょうか。

それとは別に「℃」を強調したい場合は、外字符で日本語点字の表記にするか、全体を外国語引用符でくくって英語点字の表記にするか、どちらがいいか悩んでおります。

２．「アイドリング！！！」（アイドルグループ名）について

「アイドリング！！！の○○ちゃん」という場合、「！」の意味合いが弱いので、「アイドリング！！！■の■○○ちゃん」としてもよろしいでしょうか。

３．ネットスラングで使われる「ｗ」の扱いについて

意味があまりないので外字符でいいのでしょうか。

（笑）みたいな扱いと考えられるので「ｗ」の前は原則一マスあけでよろしいでしょうか。

４．サイト名で使われる「。」の扱いについて

「僕の見た秩序。」というサイトがありますが、これを表記するときも「。」は抜くのでしょうか。

抜かない場合「僕の見た秩序。は走り続ける」という文章は、「ぼくの■みた■ちつじょ。■■わ■はしりつづける」となるのでしょうか。

また、このサイトの略称は「僕秩。」ですが、「僕秩。は走り続ける」という文章は、「ぼくちつ。■■わ■はしりつづける」となるのでしょうか。

５．メールの返信について

メール形態の文章を点訳するとき、返信の形の場合は元の文章の行頭に「＞」がついてきますが、その部分については普通の挿入文扱いでよろしいでしょうか。

《Ａ》

以上のご質問に共通してあてはまることですが、記号が本来の意味・用法で用いられているのではなく、視覚的な効果を狙った表現になっています。

点字では、原則として、その記号を省略したり、読みだけを書く方法を採用するのがよいと思います。

必要な場合は、点訳者挿入符でその形を説明します。

この原則の上で、以下のお答えをお読みいただきたいと思います。

「Ｑ＆Ａ」Ｑ120 も参照してください。

１.「℃-ute」（アイドルグループ名）について

「℃-ute」は、どうみても「キュート」とは読めません。
最初に書きましたように、点字では「キュート」と読みを仮名で書くのがよいと思います。
その上で、原文の表記を書く必要がある場合は、点訳者挿入符で《ｃｕｔｅのｃを℃にして、後ろの文字との間をハイフンでつないだ形》のように説明を入れるしかないと思います。
外国語引用符で囲んで「ｃ-ｕｔｅ」と書いても表記を正しく表していないですし、「ｃｕｔｅ」にはなりません。また、日本語表記で「℃」を書いて後ろに③⑥の点を書いても、第１つなぎ符になってしまい、ハイフンにはなりません。
「℃-ute」をネットで調べてみると、「ｃｕｔｅ」が由来で、「《メンバーの情熱の体温をなんとなく表現したくて》と言う理由で、「ｃ」の代わりに摂氏温度の単位である「℃」の記号を用い、後ろの部分とはハイフンで連結するという独特な表記を採用した」と書いてありますので、それを簡潔に点訳者挿入符で書くのがよいと思います。

２．「アイドリング!!!」（アイドルグループ名）について
このグループ名も原則として「アイドリング」と読みだけを書いてよいと思います。
墨字でも「アイドリング」とだけ表記されることもあるそうです。感嘆符が三つ付いていることを説明することが必要であれば、点訳者挿入符で説明すればよいと思います。
ただ、感嘆符は文末だけでなく、文中の語句に付くこともありますので、「アイドリング!!!■ノ■○○チャン」と書いても、この場合に限っては間違った表記にはなりません。
しかし、この書き方はできても、アイドリング!!!に句読点が続いていれば読みにくく、使用しない方がよいことになります。
１タイトルの中で感嘆符を付けたり付けなかったりするよりも、やはり感嘆符を省略して書いた方がよいと思います。

３．ネットスラングで使われる「ｗ」の扱いについて
この場合は、アルファベットの「ｗ」をそのまま用いていますので、外字符をつけて書いてよいと思います。
前を一マスあけてよいでしょう。

４．サイト名で使われる「。」の扱いについて
この場合も、「。」は、原則として省略して書いてよいと思います。
そして必要な場合は点訳者挿入符で句点が付いていることを説明します。
これを省略しないで書く場合、感嘆符や疑問符と異なり、句点には文中の語句に付けるという用法はありませんので、後ろを一マスあけで書くことはできません。しかし、この場合明らかに文の終わりではありませんから、二マスあけることもできません。
もし、この「。」をどうしても書かなければならない場合は、全体を第２カギなどで囲んではどうでしょうか。
今、第２カギを《　》で表してみると、
「《ボクノ■ミタ■チツジョ。》ワ■ハシリツヅケル」

「《ボクチツ。》ワ■ハシリツヅケル」
となります。この場合、原文にはカギが付いていないので、「句点の付いたサイト名は第２カギで囲んで表した」と断った方がよいかもしれません。

５．メールの返信について

この「＞」も元の記号の用法とは異なりますので、この記号は省略して、前のメールの引用であることが分かるように書けばいいと思います。

挿入文のように前後を行あけしたり、全体を行頭二マス下げて書いたり、またはカギ類で囲んだり、文頭に矢印や棒線を付けたりする方法が考えられます。

くり返しますが、最初にお断りしたように、そのまま点訳しては読めないような語句や固有名詞、記号が本来の用法とは異なる用い方をされている場合、視覚的な効果を狙った表現のなどの場合は、点字ではその読みを書き、必要な場合は点訳者挿入符で断るという方法をお勧めします。

《Ｑ44》

一部前回に引き続きの質問となります。

１．ネットスラングとして使用される「ｗ」について（追加）

この用語はよく「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」のように何十個も連続して使われることがあります。この場合は省略せずに全部書き表したほうがよろしいでしょうか。

２．句点及び読点が連続している場合について

今お願いしている本に「アイドルがマネージャー宛に送信したメールをそのまま単行本化した」という形を取っているものがあり、日本語として難解な内容です。

特に気になっているのが文末の「。。。。。。」とか「、、、、、、、」や「、。」です。

この場合は「ー」と同様に句読点を一つにしたほうがよろしいでしょうか。

「、。」は句点を生かした方がよろしいでしょうか。

３．ケーブルテレビ局「Ｊ：ＣＯＭ」について

意味合いを調べてみたのですが、特に「：」である必要はないと判断しました。

この場合、かなで「ジェイコム」としたいのですが、正式名称として仮名で書く会社が別にありますので

外大大ＪＣＯＭ

となるのでしょうか。

《Ａ》

１．ネットスラングとして使用される「ｗ」について（追加）

最近、このように同じ文字や記号が連続して書かれている場合が多いように思います。

これをそのまま点訳すると１行には納まらず、次の行にまでかかってしまう場合があります。それでは点字としては不自然ですし、意味合いも異なってきます。

そこで、何個までと規定することはできませんが、何個か書くとしても、その行に入るまでとした方がよいと思います。
場合によっては、行末近くになり、１～２個しか入らない場合や、逆に行頭近くになり２０個以上も入ってしまう場合もあるかと思いますが、ニュアンスが伝えられるよう数を工夫していただければと思います。
また、２番目、３番目のご質問にも共通して言えることですが、原文の表現を説明する必要がある場合は、点訳者挿入符でもとの形を補足説明するとよいと思います。

２．句点及び読点が連続している場合について
句点や読点は複数重ねて用いることはできませんので、「。。。。。」「、、、、、、」となっていても、一つだけ書きます。
また、「、。」の場合も、文脈を考えて、おそらく句点だけを書く方がよいと思います。
ただ、「、、、、、、」が点線の意味で用いられている例も見ますので、文意を考えて、点線を用いた方が適切な場合は、②の点を３点書いて、読点や句点を書くのがよいと思います。

３．ケーブルテレビ局「Ｊ：ＣＯＭ」について
「Ｊ：ＣＯＭ」は「Jupiter Tele Communication」の略称だそうですので、外字符で書くのがよいと思いますが、一続きの語の略称ではないので、二重大文字符で一続きに書くのは少し違和感があります。
「：」を第１つなぎ符で表し「外大Ｊ③⑥外大大ｃｏｍ」と書いてはいかがでしょうか。
もともとアルファベットで書かれているので、仮名にしてしまうのも抵抗感がありますし、「ジェイコム」という別の会社もありますので、避けた方がよいと思います。

その７　体系の異なる点字表記

《Ｑ45》
外国語引用符の中のスラッシュについてお尋ねいたします。
一般書の中の参考文献に出てくるような場合に、スラッシュは、現在では ④⑤⑥ヤを使ったほうがいいのでしょうか。今は、ヤ を使うと、間違いになってしまいますか？

《Ａ》
全視情協点訳委員会では、英語の点字表記は『初歩から学ぶ英語点訳４訂版』（福井哲也著　日本点字図書館）に準拠することにしています。
プライベート点訳などを除き、サピエにアップする場合は、スラッシュは、「ヤ」を使用してくださるようお願いします。
なお、英語の点字表記はＵＥＢ（統一英語点字）の関係で、日本でも今後変更になる可能性があります。点訳委員会では、全視情協大会の分科会やこの掲示板などで情報をお伝えしていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

《Ｑ46》
小説に、以下のような内容の英文がありました。

Marisa Oshima:Voluntary guide@Martian Memorial
earthian english available/Amartya Sen s.a.c., EL, b, 2429

earth date: 10:34, January 21, 2511（UTC）
location:24°　05'N 206°　15' W mars

小説の内容から、前者は登場人物のデータ情報、後者はコンピュータの設定画面を表記したものと判断したのですが、こういう場合は情報処理用の点字を使用するのでしょうか？ それとも、表記法の適用範囲には入らないと判断し英文表記でよいのでしょうか？

《Ａ》
情報処理用点字は、コンピュータのプログラミングなどで、墨字と点字の表記がそのまま対応しなければならないようなときのために決められた表記です。
たとえば、プログラミングの本やエクセルなどのテキストのように点訳書を読んでそのまま正確にパソコンのキー入力をしなければならない場合、点字で書いた情報処理言語をそのまま墨字に表さなくてはいけない場合などに有効となります。
ＵＲＬやメールアドレスも点字を読んで、正確にキー入力できることが必要なので、情報処理用点字を用います。
ご質問の小説では、この文字を読者がパソコンで入力しなければならないとは考えられませんし、特殊な記号も用いられていませんので、英文で表記するのがよいと思います。

《Ｑ47》
英語以外の外国語について質問いたします。著者がデンマーク出身の方でその中にデンマーク語の表記で書かれているところがいくつかあります。「てびき」の p88　１．（２）に英語以外のドイツ語・フランス語などが一般書の文章に挿入されている場合も、英語表記に従って書くと書いてありますが、以下の場合はどのように扱えばよろしいでしょうか？
以下のような文章のなかで使われている、０（ゼロ）に斜線がついたような記号があります。
例）伝統的なオープンサンド。・・・デンマークで「スマーボヤンボ（smørrebrøs jomfru）」と呼ばれるスモーブロー職人・・・

《Ａ》
フランス語やドイツ語の変母音と同じ扱いで、ｏの前に④の点を付けて書きます。
このように変母音やアクセント符が付いた文字であれば、④の点を前置することでなんとか表すことができますが、ロシア語やアラビア語などになると、英語表記では表しようがありませんし、頑張って原語の表記をしてみても、専門家でなければ読むことができませんので、原語の部分は省略するしかないと思います。
発音がカナで書いてあったり、日本語の意味が書いてあれば、原語を省略しても文脈は

読み取れます。
　もし原語だけの場合は、点訳書凡例か点訳者挿入符で断って、発音をカナで書く方法がよいと思います。

《Ｑ48》
　ホームページアドレスが２行にわたる時、１行目の最後は文末処理をしなければならないのでしょうか？「２行目に④の点が入るので、最後は改行マークを消さないでください」と決めていたのですが、サピエ図書館登録文書では文末処理をしています。

《Ａ》
　ホームページアドレスが２行にわたる時、「『サピエ図書館』登録点字文書製作基準」では、改行マーク、改ページマークの定義をして、それに従って使用していただくことにしています。
　実際には、印刷に影響のないところもありますが、大きな影響が出る場合もありますので、「Ｑ＆Ａ」Q122 のようにしていただきたいと思います。

《Ｑ49》
　「点字理科記号解説 暫定改訂版」（日本点字委員会発行）の「第４部 生物および地学の記号　1.1　遺伝」の例文で、
　イデンシガタワ■外大 O■ガタガ■外大 O 大 O■■外大 A■ガタガ…
とあります。
　通常文章では、血液型は「O＝ガタ」です。
　遺伝子型だから「つなぎ符」が不要なのか、理科記号だから不要なのか、ボランティアの方にどう説明すればよろしいでしょうか。

《Ａ》
　理数関係の分野では、数式や化学式などで使われる要素と、一般の日本語体系との間を明らかに区別します。
　そのために一マス、あるいは二マスあけて書きます。
　ですから、血液型を書くときも、一般文章中では「O＝ガタ」（＝はつなぎ符）、「A＝ガタ」と書きますが、理数関係の専門分野では「O■ガタ」「A■ガタ」とマスあけして書くことになります。
　「点字理科記号解説 暫定改訂版」（墨字版 p8）には、「α■セン、β■セン、γ■セン」の例も載っています。
　なお、この掲示板の No.102 のご質問に対する回答（No.103）も参照してください。
　ご質問に対するお答えとしては、「この用例は、理数関係の専門分野なので、マスあけしてあります。血液型は、一般文章中では、第１つなぎ符を用いて書きます」となります。

第５章　書き方の形式

その１　本文の書き方

《Ｑ50》

行替え・行移しについての質問です。

「てびき」p94〈処理２〉に「カギで囲んだ会話や引用文のあと、次行の行頭１字目から「と」などの助詞が書いてある場合、一マス目から書いてよい」とありますが、カギがない引用文のあとの次行の行頭の「と」は一マス目から書いてよいでしょうか？

《Ａ》

引用文のあとの次行であっても「と」が１字目から書いてあれば、原本の通り一マス目から書きます。

「Ｑ＆Ａ第２集」Q114 も参照してください。

《Ｑ51》

１．1行あけが多い原本です。

書き出しと行替えを原本通り点訳してもよいかどうか。（点訳したときに、読みにくくないだろうか？）

もしくは、ボランティア自身で判断できれば（句点で文章が終わったところなどで）その箇所までは行替え無しで点訳してもよいのでしょうか。

（以下、原本より抜粋）

「専門的な勉強をしたから」とか、
「教育関係の仕事をしていましたから！」っておっしゃる方。
私は、「そりゃー、素晴らしい！」って口にはしますが、
心の中では、早めに気づいてねって思います。
（中略）
「こんなはずじゃなかった！」
と、大きな後悔をすることが、とってもとっても多いんです。
（中略）
今からお話することは私の、そしてたくさんのお母さんたちの
「悩み、考え、やってみて」、そこから知ることができた
たくさんの「ああ、そういうことか？」をあなたにお届けする、
私たちからのお便りです。
（中略）
今、私はそれを【包む】と言っています。
この【包む】について明確に説明するのはなかなか難しいのですが、
＊原本１行あけ＊
例えば、不安におびえている時や、恐怖を感じている時には、

何かを始める気持ちにはなりませんよね。
もうだめだ、と思った時や落ち込んだ時には、
「やっぱり無理だ」「どうせ僕にはできないんだ」って思ってしまいます。

２．メールのやり取りをしていて、いただいたメールを返信する際に引用している、という内容です。引用の部分は、原本通り３マス目から棒線を用いて点訳してもよいでしょうか。

（以下、原本より抜粋）

パピーさん、こんにちは。メール返信ありがとうございました。
―『言葉の使い方に違いはあったとしても、
― その時の雰囲気が「指示」「命令」だとしたら、
― 同じことだと思うのですね』
このメールを読んでから、よく考えてみたんです。

（石神明生著『子育てのイライラ・ガミガミがなくなる本　ちょっと見方を変えるだけ！』より）

《Ａ》
点訳委員会では、ちょうど、ハンドブック５章編の編集作業を進めています。
ご質問のような、原本がすべて行頭１文字目から書いてある場合や、引用文の書き方についても、用例やポイント解説に記載する予定で検討しています。
１．２．とも、これだけが正答ということはありませんが、誤解なく読めて、できるだけ読みやすい方法を採用するのがよいと思います。

１．これを原文どおりに、原文の１行毎に行替えしていくと、とても読みにくいし、著者も点訳したときの１行までを意図していたわけではないと思います。
文の書き始めは３マス目から書き、句点のところや、会話のカギをとじた後などに行替えをして書けばよいと思います。
行あけについては、ご質問の箇所だけでは判断がつかないのですが、原則として原本の通りに行あけしてはどうでしょうか。

２．メールをそのまま引用してあるので、これもメールの１行を原本で１行に書いています。
この場合は、棒線はなくても、二重カギで囲まれている部分が引用部分と分かりますので、棒線は省略してよいと思います。
『言葉の使い方に違いはあったとしても、その時の雰囲気が「指示」「命令」だとしたら、同じことだと思うのですね』

このように書いてある文を点訳するのと同じ方法でよいと思います。
また、この本全体に、メールの引用部分が同じ書き方で書いてあれば、上のように統一して書いてよいと思います。

《Ｑ52》
挿入文の前後の行あけについてお尋ねします。
原本に１行あけがあれば、迷わず次ページ１行目でも行あけを残していますが、原本には挿入文の前後に行あけがなくて、点訳では、挿入文の終わりを区別するために１行あけたときに、その１行あけが次ページの１行目に来た場合は、もともと原本にはない行あけなので、行あけを省略してもいいでしょうか。
それとも、行あけは１行目でも残すほうが良いのでしょうか。

《Ａ》
ご質問についてですが、挿入文の終わりを区別するために１行あけたのですから、次ページの１行目に来た場合も、行あけをしないと区別がつかないのではないでしょうか。
次ページの１行目にきても、行あけした方がよいと思います。

《Ｑ53》
「指導者ハンドブック第５章編」p12　１．の回答例の中で、①～③の間が二マスあけとなっています。
こちらは、「てびき」p99（２）の（ア）と（イ）のどちらかに当てはまると考えてよいでしょうか？
ボランティアさんの中で、上記のような例の場合「以前は一マスあけにすると習った」とおっしゃる方がいます。以前と現在で、マスあけの方法が違っていたのでしょうか？

《Ａ》
この例は、「てびき」p99（２）の（ア）に当てはまります。
このように、一文のなかに、１．２．３．あるいは ① ② ③、（１）（２）（３）など箇条書きになるような項目が読点を挟まないで羅列する場合は、必ず二マスあけにします。
このことは、以前から（「てびき」入門編 1981 年発行から）一貫して変わっていません。
最近は、読点のない場合に必要な二マスあけをつい忘れてしまう方も多いので、指導や校正に当たっては注意が必要ですね。

《Ｑ54》
「佐賀酒ものがたり」という本で、「大吟醸■極醸■喜多屋」と原文で１字分の空白があります。これは、「てびき」の p98 コラムに書いてある、原文に 1 字分の空白があった場合も、そこを機械的に二マスあける必要がないという考え方で「ダイギンジョー■ゴクジョー■キタヤ」でいいでしょうか？それとも、二マスあけで「ダイギンジョー■■ゴクジョー■■キタヤ」が良いでしょうか？
他に「脊振湧水■特別純米」「吟醸■肥前杜氏■白ラベル」

《Ａ》

二マスあけについては、文脈や、レイアウトなどの関係もあって、はっきりとは言えないのですが、「てびき」p99（２）によって判断します。

「大吟醸　極醸　喜多屋」「脊振湧水　特別純米」「吟醸　肥前杜氏　白ラベル」などは（２）の（ア）に入ると思います。

特に、「脊振湧水　特別純米」「吟醸　肥前杜氏　白ラベル」は、マスあけを含む語句が読点・中点などを用いずに並列している場合の（イ）にも該当しますので、必ず二マスあけになります。

ですから「脊振■湧水■■特別■純米」「吟醸■■肥前■杜氏■■白ラベル」となります。これらが本文中に出てきても、また一覧表や箇条書きの中にでてきても、二マスあけます。

「大吟醸　極醸　喜多屋」も、（ア）の例と判断して、「大吟醸■■極醸■■喜多屋」と書くのがよいと思いますが、こちらは中にマスあけを含みませんので、本文中にでてきた場合、必ず二マスあけかというと、一マスあけでも意味の理解を妨げないこともありますので、判断が揺れるところだと思います。

ただ、「脊振■湧水■■特別■純米」「吟醸■■肥前■杜氏■■白ラベル」など、ほかの語句と並んで書いてあった場合は、二マスあける必要があります。

《Ｑ55》

ボランティアから、出典などで書名の次に著者名が書かれている場合の書名と著者との間のマスあけについて、以下のような質問がありました。どちらも誤りではないと思いますが、その違いをどのように説明したらよいでしょうか。

「指導者ハンドブック第５章編」p8　用例３．の挿入文の出典の書名と著者の間（『日欧文化比較』岡田章雄訳）、および、同書 p17　用例５．の出典の書名と著者の間（『人間拡張の原理　メディアの理解』後藤和彦）は、いずれも一マスあけとなっています。

一方、「てびき」p77　詩行符類の用例の出典の書名と著者の間（『紙風船』黒田三郎）は二マスあけとなっています。

どちらのマスあけで書いたらいいのでしょうか。また、お勧めはどちらの書き方になりますか。あるいは、両者の違いに何か意味があるのでしょうか。

書名の後ろに著者ではありませんが、出版社等が続く場合はどうなりますか。

「指導者ハンドブック第５章編」p19 「１．詩」の用例１．の出典では、書名と出版社の間が一マスあけ。

一方、「点訳問題集３　例文編」の例文４・６・16・20 では、いずれも書名の後ろが二マスあけになっています。

このマスあけの違いについて非常に気にされています。

《Ａ》

「てびき」p98 コラムにありますように、二マスあけは、文意が把握しやすいか、誤読を避けられるかという点が大きなポイントになります。

二マスあけなければ誤読を生じるようなところでは、一マスあけは誤りと指摘しなければならないのですが、読みやすさを考えて二マスあけにする場合もあり、その場合は一マスあけでも間違いとは言えない微妙なところもあります。

「てびき」p97～p99 の「５．二マスあけ」の中で、（１）は二マスあけなければ誤りになりますが、（２）は判断に迷う場合が多くあります。

出典の著者名、書名、出版社が羅列されている場合は、（２）の（ア）に該当します。

「てびき」「点訳問題集」では、二マスあけにしてありましたが、ハンドブックの編集に当たって、点訳委員会では、（ア）が「句読符などの記号類を用いずに書き流しで別の要素が羅列してある場合」となっていることから、書名がカギで囲まれていれば、記号によって、要素間の区切りが分かるので、一マスあけで差し支えないと判断しました。

そこで、ハンドブックでは、著者名、書名、出版社が羅列してあっても、書名がカギ類で囲まれている場合は、その前後は一マスあけにしてあります。

なお、上に書きましたように、この部分を二マスあけにしても間違いではありません。

《Ｑ56》

いわゆる「アナグラム」についてです。

原本の書き方が（前の普通の文章とつながっています）

「側のこちら世は界で心も、体も、りすっか力をしまえ抜いてばいい。…」

といった具合で１０行ぐらい続き、正しい読み方の説明はありません。

数行前にアナグラムを（間接的に）示唆する説明はされています。

この場合は最初に点訳者挿入符で説明を入れてから、正しいと思われる読み方を書くことになるのでしょうか。

《Ａ》

原本のジャンルにもよりますし、点訳者の工夫の範囲に入る部分ですので、いわゆる「正答」をお示しすることはできないのですが、点訳の一例を考えて見ました。

正しい読み方の説明はないと言うことですので、基本的に原文を活かして点訳したらいかがでしょうか。

最初に点訳者挿入符で

「ここから、語の順番を入れ替えた文章が○○まで続きます。入れ替えられた語のまとまりごとにマスあけして記します。」

のように断って、

ガワノ■コチラ■セ■ワ■カイデ■ココロモ、■カラダモ、■リ■スッカ■チカラヲ■シマエ■ヌイテ■バ■イイ。

と、書きます。

割合短い範囲での入れ替えですので、分かるような気がします。

原文で１０行と言うことですから、点訳すればだいぶ長くなりますので、何行かはこの方法で点訳し、点訳者挿入符で「以下は、読み替えた文章を記す」と断った上で、残りは点訳者が読み替えた文章を記してもよいのかも知れません。

いかがでしょうか？

その２　見出しの書き方

《Ｑ57》

見出しが多い本で、５マス目以下の見出しを小見出し符で表す場合、カギ類がついた見出しも、小見出し符を付けてよいのでしょうか？

同じ段階の小見出しで、カギがついたものと、ついていないものが混在しており、処理に迷っています。

もし、カギがついたものに小見出し符が使用できない場合、

（１）カギ付き見出し→小見出し符なしの３マス目からの書き出し

（２）カギなし見出し→小見出し符つきの３マス目からの見出し

となりますが、一冊の中で（１）と（２）が混在しても大丈夫なのでしょうか？

《Ａ》

まず、見出しにカギ類が付いていても、小見出し符を用いる事はできます。

カギ類の閉じ記号と小見出し符が連続していても構いません。

ただし、墨字で見出し全体がカギ類、【　】《　》“　”などで囲まれている場合、視覚的な効果をねらった場合も多いので、点訳する場合、そのカギを用いるかどうか、判断する必要があります。

次に、原本でカギの付いた見出しと付いていない見出しの大きさが同じ段階なのかを判断する事が必要だろうと思います。

今、ご質問になっている見出しが、カギの付いている見出しと付いていない見出しが大きさが同じなら、どちらにも小見出し符を用いることができます。

《Ｑ58》

出典がいくつか出てくる本について、「指導者ハンドブック第５章編」の p18 に、「１タイトルの中では書き方は揃えたほうがよいでしょう」とあります。

普段は、２行目は原則は二マス下げて書くようにしていますが、二マス上げることでレイアウトが上手くまとまる場合が１箇所だけあった場合、そこだけ二マス上げて書くことは可能でしょうか？

それとも、１タイトルの中では、あくまでも揃えて書くほうが良いのでしょうか。

《Ａ》

あまり規則性の強いところではないので、何とも言えないのですが、一つの出典だけ書き方や２行目の書き出し位置が異なるのも、読んでいて違和感があると思われますので、１タイトルの中ではできるだけ揃えた方が良いと思います。

２行目は原則として二マス下げるのがもっとも一般的な書き方です。

その４　図や表の書き方

《Ｑ59》

グラフについてお尋ねです。

日本酒についての本で、折れ線グラフ縦軸が消費量、横軸が年度（表題が「佐賀県内の

清酒、焼酎、ビールの推移」）で、点訳する際に項目を書く順番（数の大きい順にビール、焼酎、日本酒）ですが、「指導者ハンドブック第５章編」p42　７．の折れ線グラフを参考にさせて頂くと数の大きいものから書いてあるのですが、日本酒についての本なので項目の順番をかえて、日本酒から書くのがよりわかりやすいのではないかと、意見が出ているのですが、どうなのでしょうか？

また、折れ線グラフと、棒グラフが混在した表があって、左縦軸が蔵元数（単位は軒）、右縦軸が清酒製造量（単位はｋｌ）、横軸が年度（表題が「佐賀県内の清酒製造量と蔵元数の推移」）で、はじめに折れ線グラフの清酒製造量を、次に蔵元数をというふうに点訳されているのですが、これは数字がはっきり読み取れる蔵元数から点訳したほうが、よりわかりやすのではないかと。

表の書き方について質問いたします。

表のワクは本文との区別をつけるために「てびき」p116 の表の入れ方（ア）にありますが、本の中に

① 見出しの下に本文と表

② 見出しの下に表のみ

がある場合、②の場合の表は本文と区別する必要がないと考えて、ワクで囲まなくてもいいのでしょうか？表であることをはっきりさせるためにワクで囲むのではないかと、意見が分かれています。

《Ａ》

「指導者ハンドブック」には、一般的な書き方を例として挙げていますので、原本の種類や内容によって、グラフの意図を読み取って書くことが大切だと思います。

以前から話題に出ている「佐賀酒」の本でしょうか？

グラフを表に書き換えるとき、数量の多い方から書くのが一般的ですが、日本酒の本ですし、行頭に、「清酒、焼酎、ビール」と項目が入りますので、少ない方から書いても構わないと思います。

ただ、表は縦・横比較して読みますので、一般的な書き方をしても間違いとは言えないと思います。

折れ線グラフと棒グラフが一つに書いてある場合、月別の降雨量と気温を示したグラフなどが一般的ですが、表を書く際には、点訳者挿入符で、折れ線グラフの数値を読み取ったことなどを断ります。

そのときに、どちらを先に書いたかも一言断れば、分かりやすいと思います。

本文のポイントがどちらにあるのかが分かりませんが、グラフのタイトルから見ると、清酒製造量が先に書いてある方が自然かもしれません。

一つの見出しの中が表だけの場合については、原本の種類や表や図などの書き方にもよると思いますので、一概にはお答えできないのですが、目次に載せるような見出しで、その見出しだけ例外的に本文がなく、表だけがあり、他の見出しは本文だけであったり、本文と図表だったりした場合は、枠で囲むのが一般的な処理だと思います。

たとえば、図表が大部分を占める本であったり、資料の部分で図表だけがまとめられて

いるような場合は、一つ一つ枠で囲まないで、別の工夫をすると思います。

その５　ルビやマークなどの書き方

《Ｑ60》

ルビについて、お尋ねします。

一冊の本で同じ漢字が何度も出てくる場合、ルビが振ってあったり、振っていなかったりバラバラなものがあります。

例えば、『寄宿学校(ルビあり)』のあとに同じ語句がルビなしで出てきます。そしてまたしばらくすると『寄宿学校（ルビあり)』と、出てきます。

この場合、てびき p128 の＜処理＞のように文脈から判断してよいのでしょうか。

その場合、ルビありとルビなしの語句が混在してしまう場合もありますが、それは OK なのでしょうか。

《Ａ》

ルビにはいろいろな処理が想定されますので、「てびき」p127～p128 を基本に、「指導者ハンドブック第５章編」p50～p53 も参照してくださいますようお願いいたします。

総ルビの本は別として、殆どの場合、１つの語句が出てくるたびにルビが振られていることは少ないと思います。

ある語句にルビが振られていたら、「てびき」p127～p128 の(１)～(３)のどの場合にあたるかを原本の文脈から判断して、初出の時にルビの処理をして、それ以降は、その読みだけを書くのが一般的です。

たとえば「寄宿学校」に「ボーディング・スクール」とルビが振ってあった場合、その本では、著者はどちらの読みを採用しているのかを判断し、最初に

キシュク■ガッコー（ボーディング■スクール)

ボーディング■スクール（キシュク■ガッコー)

のどちらかに点訳します。

そして、２度目からは、前に書いた方（カッコに入れなかった方）だけを書くのが、基本的な方法となっています。

もちろん、原本によって、また、ルビの種類や語句によって、巻ごとに初出にルビの処理をしたり、読み方を変えたりすることもありますので、一概にお答えすることはできません。

最初に書きましたように「ハンドブック第５章編」を参考にしてくださるようお願いいたします。

《Ｑ61》

翻訳物で、漢字に外国語のルビがついているのですが、次に同じ言葉が出た時は、ルビがついていません。「てびき」p 128〈処理〉に「文脈から判断してルビを書くか元の漢字の読みを書く」とありますが、わかりやすい方でよいということですか？

《Ａ》
漢字に外国語のルビが付いている場合、断定はできませんが、多くの場合、著者がその本では、その漢字をルビのように読んで欲しいという思いが込められていると思います。ですから、一般的には、ルビを書いた方がよいと思います。
ただ、ルビが付いているところだけ、その読みで読ませたい場合もあります（「ハンドブック第５章編」p52 コラム「ルビもいろいろ」参照）ので、「分かりやすい方」ではなく、「文脈」によって判断してください。

《Ｑ62》
ルビと誤植について、お尋ねします。
ルビが言葉の説明をしている時はルビをカッコで囲むとありますが、英語のスペルがルビに振られている場合はどうなりますか？
例えば、エイプリルフールの語句に“April fool”とルビが振ってある時などです。
エイプリルフールの英語訳がルビに振られているので説明になる…と判断し、エイプリルフールの後にルビをカッコで囲むとしたのですが、この判断基準は正しいのでしょうか？
「指導者ハンドブック第５章編」のｐ50、51 の問題の１０．と１１．の解答例（質問の書き方とは逆で、外国語のスペルに日本語のルビが振られています。）は全て英語のスペルがカッコで囲まれていました。
また、前後の文章によってルビの捉え方（通常通りのルビか説明のルビか）が変化したりすることはあるのでしょうか？
説明のルビだと判断するポイントなどありましたら、教えて下さい。

もう１つの誤植についてですが、東日本大震災３月１１日が３月１０日になっていた本を見つけました。
こういう日付がはっきりしている時事についての誤りは、明らかな誤植として修正してもよいのでしょうか？
また、原本のまま点訳する場合、点訳者挿入符で((原本のママ))などの断りは入れるべきなのでしょうか？

《Ａ》
ルビの処理は迷うことが多いのですが、外国語の原語とその発音が書いてある場合は、読みを先に書き、カッコ内に原語を書くことが多いのではないかと思います。
特に、なじみの少ない外国語の場合、原語が書いてあっても発音がわからないと、そこで指が止まってしまうのではないかと思います。
先に、とりあえず仮名で読んで、そのあとにカッコ内の原語を読めばスムーズに行くのではないでしょうか。
児童書などには、Ａ、Ｂ、Ｃなどのアルファベットにもルビが付いていることがあります。これも「エイ、ビー、シー」が先にあれば読み進むことができます。
誤植については、日付や数字を修正することは、特に慎重にしなければなりません。

誤植がここ１箇所で、明らかに東日本大震災の当日のことを指しているのでしたら、これは修正してもよいのではないかと思います。
ただ、その本全体をよく見て、これ以外にも誤植が目立つようなら、施設から出版社に問い合わせて確認するのがよいと思います。
本文に点訳者挿入符で「原本のまま」などと入れるのは、あまりお勧めではありません。

《Ｑ63》
図書の見出しにルビがあるが、目次には書いてない場合、点訳書の目次には、本文の見出しそのまま(ルビ付き)あげてもよいのでしょうか？
例：タイトル名が「異星人」、ルビが「かのじょ」

《Ａ》
この場合、原本の目次にルビがなくても、点訳書の目次には
１．カノジョ
２．カノジョ（イセイジン）
のいずれかを書くことになると思います。
本文に行けば、ルビが振ってありますので、どちらでも目次の役割は果たしていると言えると思います。
一般的なお答えとしては、見出しの長さや、見出しの一部にルビが振ってあるのか、この例のように見出し全体のルビなのか、また、他の見出しにもたくさんルビがあって紛らわしいかなどで、１．か２．かを判断していただくことになると思いますが、この例に関していえば、ルビがついていた方がわかりやすいのではないでしょうか。

その６　本文以外の割り付け

《Ｑ64》
ページのつけ方について質問です。
「てびき」p133 にある「まえがきなどが本文の内容と連続性が強い場合は、本文と通しページとする。」について、判断しにくいと感じています。
例えば原本が

－－－－－－－－－－－－－－
タイトルページ
↓
装画・本文イラスト／○○○○、装丁／○○○○　（のみ書かれたページ）
↓
目次
↓
１３歳の夏。わたしは深海魚にみちびかれ、深海へと迷い込んだ。（のみ書かれたページ）
↓
１　深海への道（ここからｐ５と印刷あり。）

－－－－－－－－－－－－－－－

という流れで本文に入っていきます。

点訳者は第１章がｐ５となっているので「（タイトルページから１ページとカウントできるので）連続性が強い＝点訳では通しページ」という考えがあるようです。

校正担当者は ｐ５にはあまりとらわれず、「１　深海への道」から点訳書の１ページが始まる（「１３歳の夏。・・・」の部分はページなし）としてよいのでは？という考えがありました。

また他にも「原本目次の前後にあるかどうかで、通しページにするか下がり数字にするか決めている」という点訳者もおられました。

今回は、校正担当者の考えにまとめてみたのですが、今後はどのように考えていくのがよいのでしょうか。

《Ａ》

「連続性」は、原文のページ付けや目次の位置で判断するのではなく、内容の連続性で判断すると考えていただきたいと思います。

小説や物語の場合、「プロローグ」「序章」等とあっても、すでにそこから物語が始まっている場合が多くあります。

その場合には、「プロローグ」「序章」から、本文の１ページになります。

学術書やシリーズものなどに多いのですが、本文の内容とは切り離して考えられる部分に、下がり数字などでページ付けをすると考えてください。

今回の「１３歳の夏。～」の部分は、本文に入る前に主人公の独白のようなものが２～３行入っているので、意見が分かれるところだと思いますが、ここは独立させたページの方が良いのではないでしょうか。

「１　深海への道」から１ページの方がすっきりすると思います。

《Ｑ65》

目次が３ページなどで複数枚になるとき、「モク１、モク２」と入れますが、１巻は３ページ、２巻は２ページの場合、１巻には「モク１、モク２」と入れ、２巻の目次のページ行は空白でよいのでしょうか？

同一タイトルの図書なので、全巻「モク１」を入れたほうがよいのでしょうか？

また、すべて２ページ内で終わる図書に「モク１」を入れるのは間違いになりますか？

《Ａ》

目次の頁付けは１枚の時には省略してよいことになっていますので、第１巻が１枚で終われば、第１巻には頁を付けないで、第２巻が複数枚になれば、第２巻には頁を付けるという方法で差し支えありません。

目次が１枚で終わっても、全ての目次に頁を付けることは間違いとは言えませんが、１枚の場合は頁付けをしない方法が広く行われています。

《Ｑ66》
まえがき等は目次の後に用紙を改めて書くようになっていますが、点訳書凡例がまえがき等の前に来たときは、点訳書凡例が終わったあとにページを替えてまえがき等を点訳してよいのでしょうか？点訳書凡例は点訳書独自のものなので、点訳書凡例が終わったあとは用紙替えをし、奇数ページからまえがきを書き始めた方がよいのでしょうか？

《Ａ》
一般に、用紙替えをするのは、表紙のあと、目次のあと、下がり数字のページ付けが終わったあと、１ページからのページ付けが終わった奥付の前となります。ですから、本文の前に書く、点訳書凡例、献辞、前書き・序文などは、ページ替えで書きます。
また、本文の後ろに続く、あとがき、初出一覧、参考文献、著者紹介などもページ替えで書きます。

《Ｑ67》
「『サピエ図書館』登録点字文書製作基準」の p7　２．標題紙の【例１】【例２】で、枠線は４行目から書くようになっていますが、シリーズ名がない場合も行を上に詰めることはせず、例のように４行目から書いてよいのでしょうか？

《Ａ》
2011 年２月発行の「製作基準」では、【例１】【例２】の枠線の行が異なっています。
枠線を何行目に書くかについて特にルールはありません。
標題紙として全体のバランスや読みやすさなどを考えて、各施設・団体で決めてくださるようお願いします。

《Ｑ68》
標題紙の書き方についてお教えお願いします。
ＴＲＣが長い場合の書き方に苦慮しています。下記の場合はどうなりますか。

例１
タイトル　　彼岸花の女
副書名　　文庫書下ろし／長編時代小説　乾蔵人隠密秘録　１
シリーズ名　光文社文庫　ふ２０－８．　光文社時代小説文庫

例２
タイトル　　風花躍る
副書名　　書き下ろし長編時代小説
シリーズ名　返り忠兵衛江戸見聞　［４］

上記２例は下記のようにしたいのですがいかがですか。

例１
（（コーブンシャ　ブンコ　フ　２０－８））
　　ヒガンバナノ　オンナ
－－　イヌイ　クランド　オンミツ　ヒロク　　２　－－

例２
（（カエリ　チューベエ　エド　ケンブン　　４））
　　カザハナ　オドル
－－　カキオロシ　チョーヘン　ジダイ　ショーセツ　－－

例１のように、副書名及びシリーズ名が長い場合は、副書名は「乾蔵人隠密秘録　１」のみを記載。シリーズ名は「光文社文庫　ふ２０－８」を記載。他の項目は記載しない。
例２は、シリーズ名は必ず記載する。副書名は「入れる」「入れない」どちらにもとれます。
このような場合は施設・団体で決めてもよいのでしょうが、最低限この項目を入れるという基準があれば、処理しやすいのですが、この判断基準をお教えください。

《Ａ》
叢書名、シリーズ名が複数付いていて、標題紙や奥付に迷う例が多くなりました。
最近は、出版社の名称だけの「講談社文庫」「岩波新書」なども、点訳書の標題紙に入れている施設・団体も多くなりましたが、「ハンドブック第５章編」ｐ61 にありますように、以前からの慣習として、原則的に省略してよいことになっています。
出版社の名称だけのシリーズ名を入れるかどうか、また、「長編時代小説」や「書き下ろし」のような副書名まで入れるかどうかは、規則性の弱いところですので、それぞれの施設・団体で方針を決めていただくことになります。
方針として決められれば、例１、例２の書き方もよいと思います。
ただ、「光文社文庫」を叢書名に入れる場合も、「光文社文庫　ふ２０－８」の「ふ２０－８」の番号は、サピエ図書館の書誌でも省略するルールになっていますので、標題紙にはいれなくてもよいのではないでしょうか。
また、例２の副書名も、入れていない施設・団体も多くあるようです。
蛇足ですが、叢書名が二重カッコのように書かれていますが、叢書名は第１カッコで囲みます。

《Ｑ69》
「指導者ハンドブック第５章編」「４.目次」のポイント解説に、「見出しとページの間が二マスまたは３マスのときはマスあけにし、４マスの場合は②の点を二マス入れるか空白にします」と書かれています。
当館では空白を入れていました。どちらでもよいということでしょうが、いつからどちらでもよくなったのでしょうか？

《Ａ》
目次の見出し項目と数字の間が４マスの時についてはとくに約束事はありませんでした。
「『サピエ図書館』登録点字文書製作基準」では、見出し項目と数字の間が一マスあけの場合は、×にしていましたが、二マス以上については何も決めていませんでした。
ただ、これまでも、４マス空白がある場合、②の点を２点入れる処理をされている施設・団体もありましたので、今回、②の点を一つだけ書くのは、おすすめできませんが、②の点が二つ以上あれば、点を入れても、空白でもどちらでもよいと書きました。

《Ｑ70》
目次の見出しとページ数をつなぐ②の点や③の点について教えてください。
見出しとページ数の間が３マスのときは、どう考えるべきでしょうか？
・見出しとページ数の間を２の点を２個使う。
・ページ数は次の行に書く。
上記のように意見が分かれているのですが…。どのように、考えるべきでしょうか？

《Ａ》
「指導者ハンドブック第５章編」p67 にありますように、見出しとページ数の間が二マスまたは３マスのときには、そこには点を入れず、空白にします。４マスあく場合は、②の点を二マス入れるか空白にします。
ページ数は、空白の後、同じ行に入れてもいいですし、見出しの直後に改行マークを入れて次行１５マス目から②の点または③の点を書いて入れても構いません。
見出しとページ数との間には少なくとも点を２個は入れます（「『サピエ図書館』登録点字文書製作基準」p11（１）も参照してください）。
見出しとページ数の間が３マスしかあかない場合は、２個入れることができませんので、３マス空白にして同じ行にページ数を入れるか、見出しの直後に改行マークを入れて、次行１５マス目から②の点または③の点を入れてからページ数を書くことになります。
それは各施設・団体の方針でどちらでも構いません。

《Ｑ71》
目次でタイトルが２行になる時、１行目を２７マス目まで書いてもよいですか？
当館では、目次でタイトルが２行になる場合、２行目に　……　のみ入れる書き方をせずに、必ず１行目の最後の語から改行して　……　を書いていました。
サピエ図書館にデータをアップする際、間違いになるのでしょうか？
１行目の最後に副題の始まりの　ーー　だけ残る場合は、２行目に下げて書いてもよいのでしょうか？

《Ａ》
目次で、見出しの項目と数字の間にスペースがない場合は、２行目の１５マス目から点線だけを入れることは、「てびき」でも「製作基準」でも示している書き方ですので、わ

ざわざ、１行目に入る部分を次の行に移す必要はありません。
「てびき」p136　例１にあるように、27 マス目まで語句を入れて差し支えありません。
レイアウトについては、幅のあるところですので、貴施設の書き方を「サピエ」で間違いとするというような強い指摘はしておりませんが、できれば「サピエ」の製作基準に準じた書き方をされる方がよいのではないでしょうか。
パソコン点訳になってから、さらにこのような処理が進んだと思います。
１行目の最後に棒線だけが残っても差し支えありません。
なお、項目と数字の間が二マス～４マスの場合、その間を空白とするか、点線を２点以上入れるか、次の行の 15 マス目から点線を書くかなどの処理は、各施設・団体によってまちまちです。

《Ｑ72》
原本の目次に、

第１章　ミスをしない人の「基本ルール」
①　教訓の法則　人の失敗は「最高の教科書」になる　……　14
☆　気乗りしない報告ほど、重要度が高い
②　油断の法則　「大丈夫」と思ったときこそ、丁寧に動く　……　16

と、あります。
本文についている見出しは、

第１章　ミスをしない人の「基本ルール」
（文章　略）
①　教訓の法則　人の失敗は「最高の教科書」になる
☆　気乗りしない報告ほど、重要度が高い
（文章　略）
☆　「人のせいにしない人」は、ミスが少ない
（文章　略）
②　油断の法則　「大丈夫」と…

となっており、☆付きの同じ大きさのタイトルですが、二つ目は目次に上がっていません。
すべての章で一番最初にある☆付きの見出しのみ目次にあがっているのですが、原本通りの書き方でよいのでしょうか？
目次に書き足してもよいのでしょうか？

《Ａ》
点訳書の中で、標題紙と目次と奥付は、原本と同じにはなりません。
原本で標題紙と奥付の記載内容が異なっても点訳書では統一して書きますし、原本には

ない点訳書奥付も入れます。
　目次も同様に、掲載のページも異なりますし、目次内容も各巻に分けて記載します。
　また、同じ見出しでも目次と本文とでの扱いが異なる場合も多く見られます。
　ご質問のように、目次には記載していない見出しが本文にはあったり、目次には小さい見出しのページが記載されていなかったりすることもあります。
　そのような場合は、点訳書での検索性を考慮して、本文の見出しにあわせることを基本とし、また、原本では小さい見出しのページが入っていないときでも、ページを入れるようにします。
　この場合も、☆付きの見出しが、①②の見出しの中に複数ずつあり、それが見出しの項目として同じ大きさでしたら、すべて目次に挙げてページ数を入れるようにするのがよいと思います。
　ただし、☆付きの見出しが大量にあり、点訳書でも２～３ページごとに目次に挙げるようになるようでしたら、それより一段上の見出しだけでもよいかもしれません。
　原本によって判断してください。

《Ｑ73》
目次の項目とページの書き方について質問します。
原本に見出しがない題辞などが下１ページにあって、下２ページ目から前書き（原本に見出しがある）がある場合に、目次は、下２ページから始まっても構わないですか？
それとも、目次項目に、題辞として下１ページを加えたほうがいいでしょうか？

《Ａ》
　ご質問については、次のように二つの考え方があり、点訳委員会としてはどちらの方法で点訳されてもよいと思っています。
　１．目次に掲載する項目は、必ず１ページからと決まっているわけではないので、目次の最初の項目が、
　前書き・・・・・下がり数字２
と、なっても構わない。
　２．著者紹介は、原本にその見出しがなくても、点訳書の目次に項目をたてて載せるので、同じように考えて、題辞とか献辞のように点訳書独自の項目名を付けて、
　献辞　・・・・・下がり数字１
から掲載する。
　点訳書の目次は、原文通りではない部分がありますので、どちらの方法を採用するかは、各施設・団体で決めてくださるようお願いいたします。

《Ｑ74》
　原本のタイトルが数字だけで、目次がない図書について、この数字だけで点訳図書の目次を作ってもよいのでしょうか？
　今までは、原本タイトルが数字のみの時は、５マス目見出しとして目次を作っていませんでした。

目次を作る時は、著者紹介などもありますので、７マス目見出し扱いとなるのでしょうか？

《Ａ》
点訳書で、標題紙、目次、奥付は、点訳書独自のもので原本とは異なるものですし、レイアウトの部分は、規則性の弱いところですので、このご質問には、「作ってもよいですし、作らなくてもよいです」というお答えになってしまいます。
一般的なことを申し上げれば、数字だけの見出しで、原本にも目次がない場合は、点訳書でも目次を作らないことが多いと思いますし、数字だけの見出しの場合は、５マス目から書いている施設・団体も多いと思います。
ただ、数字だけの見出しでも、７マス目から書いても差し支えありませんし、著者紹介やまえがきなどがあった場合、検索性を考慮して全巻に目次を入れてもよいと思います。

《Ｑ75》
短編小説は、２巻以降の目次も書くと思いますが、登場人物が同一人物の場合には２巻以降の目次は必要ないですか？ このような慣習というものが存在していますか？
それとも、登場人物が同じかどうかは関係なく、短編小説の内容で必要ならば２巻以降の目次を記載すると判断しても良いでしょうか？

《Ａ》
読まれる方への配慮の部分ですので、こうしなければならないと言うことではありません。
一般に、第１巻に２巻目以降の目次を書くのは、逐次刊行物や大部な図書などが多く、小説・エッセイなどの一般書では、ごく少ないと思います。
ただ、短編小説集で、第１巻に全巻のタイトルが紹介してあれば、順番に読まなくても興味のあるタイトルだけを読んだりできるので便利ですね。

《Ｑ76》
表紙と奥付の書き方を教えて下さい。
①原本の図書の表紙には、「コナン・ドイル」、奥付には「アーサー・コナン・ドイル」と書かれていて、ＴＲＣには「コナン・ドイル」とある場合、点訳図書の表紙・奥付は「コナン・ドイル」と、書くのでしょうか？また、ＴＲＣがない場合はどちらを書けばよいでしょうか？(「指導者ハンドブック第５章編」標題紙の練習の２番目の図書です)

②原本の表紙に編集委員の個人名が５名書いてあり、奥付には○○編集委員会と書いてある図書で、ＴＲＣには５人の個人名が書いてある場合は、点字図書の表紙は△△他で、奥付も個人名を書くべきでしょうか？原本通り○○編集委員会でよいのでしょうか？また、ＴＲＣに○○編集委員会とある場合は、表紙・奥付は○○編集委員会としてよいのでしょうか？

③「指導者ハンドブック第５章編」「６．奥付」の例題で、郵便番号が 112-8001 となっています。原本には、112-8011 となっていますが、誤植でしょうか？

④ 叢書名が２つ「自薦短編集」「○○」とある時、奥付は一つずつ(　)で囲みますか？一つのカッコにまとめて入れてよいですか？その時は、間を二マスあけでよいですか？

⑤奥付のホームページにホームページアドレスと別にご意見・感想を送るアドレスが書かれている場合は、入れたほうがよいですか？

《Ａ》

①原本の図書の表紙、奥付の著者名が異なっていて、表紙とＴＲＣが同じ場合、墨字原本にも、標題紙、奥付、ＴＲＣなどいろいろな情報がありますので、どれが正解でどれが間違いと断言できるものではありません。ただ点訳に際しては、どれかに決定しなければなりませんので、その際の目安として、「サピエ図書館」にアップする図書の場合は、１．ＴＲＣの情報、２．原本の奥付の順序で考えていただければいいと思います。

点訳者はＴＲＣの情報が得られないことも多いので、点訳を依頼する点字担当職員が、依頼の段階で、書名・副書名・シリーズ名・著者名など、標題紙・奥付に記す情報を確定して、点訳者に提示することが大切かと思います。

②原本表紙に個人名、奥付は○○編集委員会、ＴＲＣには個人名の場合、また、ＴＲＣに○○編集委員会とある場合

ＴＲＣに○○編集委員会とあれば、標題紙・奥付ともに「○○編集委員会」でいいと思います。ただ、読者への情報提供ということを考慮すれば、個人名やその所属なども原本にあれば紹介してよいと思います。

それは、最終巻に著者紹介、執筆者一覧等の形で載せる事ができます。

ＴＲＣに個人名が並んでいて、奥付が○○編集委員会だった場合、担当者の判断で、いくつか考えられると思います。

ａ．標題紙は、○○ほか著で、奥付に全員の名前を記す。

ｂ．標題紙は、○○ほか著、奥付には、○○編集委員会として、最終巻に執筆者一覧として全員の名前を掲載する。

ｃ．標題紙、奥付ともに、○○編集委員会として、最終巻に執筆者一覧を掲載する。

などです。

ＴＲＣを主に考えるとすれば、ａ．がお勧めかもしれません。

③申し訳ありません。誤植だったかも知れません。

ハンドブックの奥付例は、点訳の課題としてお使いください。

実際にこの本を点訳される際には、その本の奥付にしたがって下さい。

④書名が２つの場合

叢書名が二つある場合、多くは、「○○文庫」「○○新書」などのパブリッシャーシリ

ーズといわれるものだと思います。
　以前は、このような文庫名などは点訳書の叢書名として書くことはありませんでしたので、現在でも、単に出版社の名称を付けただけの文庫名（岩波文庫、新潮文庫など）は、点訳書には付けていないところが多いと思います。
　しかし、サピエ図書館でＴＲＣマークを採用していることもあって、ＴＲＣのとおりに、点訳書にも叢書名として採用する施設・団体も増えてきたようです。
　そのような場合について、「製作基準」では何も決めていませんが、一つのカッコの中に並記してよいと思います。
　その場合、サピエの書誌登録の方法に従って、「○○文庫」のナンバーは書かないでよいと思います。
　（○○■ブンコ■■ジセン■タンペンシュー）のようにしたらどうでしょうか。

　⑤奥付に意見・感想を送るアドレスがある場合
　奥付には、必ず入れなければならない項目が「てびき」p138 に記してあります。これ以外の項目については、各施設・団体で判断してください。

《Ｑ77》
　奥付の書き方について、お尋ねします。
　標題紙や書誌情報には副書名が載っているが、原本奥付には副書名が載っていない本があります。
　その場合、原本奥付を点訳する時は、副書名の項目を追加して点訳した方がよいのでしょうか。それとも、原本の奥付の通りに点訳してよいのでしょうか？

《Ａ》
　点訳書の書名・副書名・叢書名などは、書誌情報や原本奥付などで決定し、その方針に添って標題紙や奥付を作成するようにします。
　ですから、原本の記載にかかわらず、点訳書の標題紙と奥付は、記載内容が一致することになります。
　標題紙と奥付と書誌情報の内容が異なる場合もあり、判断に迷うこともありますが、点訳者に原本を渡す前に、書名・副書名・叢書名などを判断して決定したうえで、点訳を依頼するようにすれば、その後の作業がスムーズに進むのではないでしょうか。
　「てびき」p133＜処理＞にあるように、以前は、奥付から判断するのが一般的でしたが、「サピエ図書館」にアップする図書は「サピエ図書館」のＴＲＣ情報で判断するのが便利です。
　ＴＲＣ情報と点訳書の書名・副書名・叢書名などが一致していた方が、読者にとっても担当者にとっても混乱なく利用することができます。

《Ｑ78》
　奥付の書き方についてです。
　原本の書き方が

平成二十五年六月発行
発行　円覚寺
となっており、このままだと「ハッコー」が２行続いてしまいます。
この場合は「発行日」等言葉を付け足してもかまわないものでしょうか。

《Ａ》
「てびき」等の例では、「発行所」として、発行年月日と区別していますが、「発行」と「発行日」にしても構わないと思います。

《Ｑ79》
「てびき」p99　（２）-(ア)の異なる要素間のマスあけに関連して再び質問がありました。表紙や奥付に記載する書名と巻次・版・各巻書名などとの間のマスあけについてです。
書名と巻次の間は二マスあけでいいと思いますが、では、書名と版の間はどうでしょうか。たとえば「点訳のてびき 第３版」では、「第３版」の前は一マスあけ、同第２版も同様です。書名と版の場合は異なる要素であっても二マスより一マスあけでしょうか。ちなみに、サピエの書誌では、版表示ではなく書名の一部になっていました（第２版は両方登録）。
また、以下の例の場合、異なる要素間と考え、二マスあけでいいでしょうか。特に、⑤は二マスあけで処理しても、かなり紛らわしく感じます。（巻次などは、いずれもサピエの書誌で確認）
① 岳物語　続（巻次）
② ぼくが医者をやめた理由　つづき（巻次）
③ 平成サラリーマン川柳傑作選　３杯目（各巻書名）
④ ソロモンの偽証　第１部（巻次）　事件（各巻書名）
⑤ ソロモンの偽証　１（巻次）　第Ｉ部　事件（各巻書名）　上巻（各巻巻次）

《Ａ》
書名と巻次・版・各巻書名などが並記されている場合は、二マスあけを基本としていいと思います。
「点訳のてびき」の場合は、第２版で『点訳のてびき 第２版』を書名としていましたので、第３版もその考えを引き継いで、『点訳のてびき 第３版』を書名としています。
①～⑤はすべて、書名と巻次、各巻書名の間を二マスあけでよいと思います。確かに④⑤は紛らわしいと思いますが、一マスあけにすると誤解を生じる恐れがあります。
数字の１や上巻などが（１）（上）のようにカッコに入っていれば、前を一マスあけにすることもできると思います。
なお、標題紙の書き方は、「てびき」「製作基準」「ハンドブック」の用例では、副書名や各巻書名で行を替えるレイアウトにしています。
そうすれば、少なくとも標題紙では、二マスあけかどうかで迷うことは少なくなりますね。
いずれにしても、異なる要素が羅列されている場合の二マスあけは、原文によっては迷

う場合が多いところです。

《Ｑ80》
標題紙の作成についてです。
本来であれば表紙に付いている著者の肩書きはＴＲＣ情報等に入っていないので外すかと思いますが、今製作している本「妄想彼女」には、表紙に付いている肩書きとして「ひとりデートマスター」と付いています。
この肩書きは著者紹介にも本文にもそのままでは載っていません。
ただこの本の内容を表すのに最適な肩書きではあります。
この場合は標題紙に記入すべきか、帯の情報を入れたいのでその場所につけるか、点訳書凡例があるのでそちらにつけるか迷っています。
個人的には点訳書凡例かなとは考えているのですが。

《Ａ》
これは、点訳書凡例でも、また帯情報を書いたところに付け加えても、どちらでもよいと思います。標題紙には入れない方がよいと思います。

《Ｑ81》
韓国の人名について、ボランティアの方が点訳してきた図書で、点訳書凡例に、「漢字２字の人名は続けて書きますが、３文字以上の人名は区切って書きます」と、書いていました。凡例でお断りすれば、このような書き方をしてもよいのでしょうか？

《Ａ》
「てびき」p52【備考】に「中国・朝鮮の人名のうち、漢字２字の短い姓名は続けて書くことができる。」とありますので、規則通りの点訳がなされていると思います。
ですので、このことをわざわざ点訳書凡例に記す必要はないと思います。
「てびき」には書かれていない特殊なあるいは専門的なルールを適用したとか、やむを得ず独自のルールで点訳した等の場合に、点訳書凡例で断ります。
「点訳書凡例」に入れる項目については、「『サピエ図書館』登録点字文書製作基準」（2011 年２月）の p15 にまとめてありますので、参照してください。

《Ｑ82》
原本中に太字で書かれている文章を、指示符でなくカギ等で囲った場合、点訳書凡例でことわりをいれた方がよいのでしょうか？
太字や傍点を、指示符でなく、カギ類でくくって点訳するのは「『サピエ図書館』登録点字文書製作基準」p15　セ．にあてはまるのでしょうか？

《Ａ》
カギ類も指示符類も強意に用いるものですので、原文で太字で強調されている箇所にカギ類を用いるのは、特別な用法ではありません。ですから、太字の部分にカギ類を用いて

も点訳書凡例で断る必要はありません。
「『サピエ図書館』登録点字文書製作基準」p15　セ．は、例えば、将棋の点訳をするときに、「香車をキで、桂馬をケで表しました」などという場合を指します。

《Ｑ83》
索引の書き方について２点お尋ねします。
１．索引項目の一つの墨字ページの中に同じ言葉が複数ある場合、それぞれに該当する点訳書ページが複数にまたがることがありますが、この時の処理について、次の３つの方法が、今、グループの中で混在しています。一番望ましい書き方はどれでしょうか、あるいは、もっと良い方法がありましたら教えてください。
①墨字ページの最初に出てきたところに該当する点訳書ページだけを記載する。
②すべてに該当する点訳書ページを一つずつ記載する。（連続していれば、数○～数○、とびとびの部分はそれぞれ一つずつ書く）
③墨字ページの最初に出てきたところから一番最後に出てきたところに該当する点訳書ページを数○～数○と記載する。

２．索引の書き方ですが、
２巻８ページ　１５ページ　３巻９ページ　を表すのに、点訳書凡例で断ったうえで、
数二８■１５■■数三９
というように、同じ巻の中は数符を省略して表してもいいでしょうか？
それとも、一つずつ
数二８■数１５■■数三９
のように、マスあけした後ろには必ず数符は必要でしょうか？

《Ａ》
ご質問いただいた「索引」の書き方について、点訳委員会では次のように考えます。
１．読者が索引を用いる場合、ある語句の載っているページを調べ、その箇所を特定し、そこから、またはその少し前から読み進めるのが一般的だと思われます。
一方、索引項目の採りあげ方は、その本の編集者・著者の意図や本の性格・内容によってまちまちです。
その語句を主に説明しているページだけを掲載している場合、その語句が見出しになっているページだけを採っている場合、該当語句が出てくるページを全て採っている場合、２～３ページにわたってその語句が集中しているときに、その最初のページだけを採っている場合など、手元にある本を見ても、様々でした。
点訳の場合、原本の索引の作り方を確認した上で方法を決める必要がありますので、グループによってというより、原本によって点訳方法がいろいろあるのがむしろ当然と思われます。
原本の索引の掲載の仕方をみて、点訳方法を決め、必要に応じて点訳者挿入符か、点訳書凡例で断って書くのがよいと思います。
今、手元にあります『岩波日本語使い方考え方辞典』（北原保雄監修）の索引を見ます

と、例えば、
　康熙字典体　　９８，２９８
　公用文　１９２（太字）
とあります。
　そのページを見ると、「康熙字典体」は p98～p101 と p298～p299 に散在しています。また、「公用文」は p192 に見出しがあり、p194 まで説明が続いています。そして、その見出しの前にも「公用文」の語は出てきますが、それは、索引に拾われていません。（右肩に、「該当見出し参照」を示すアステリスクが付いています。）
　この場合、「公用文」の太字のページは、数字をカギで囲むなどの処理をし、点訳書の見出しの該当箇所を記し、「康熙字典体」は、原本 p92 と p298 の初出箇所を記すのがよいのではないかと思います。

２．索引の数字の書き方は、「てびき」p141 にもありますので、ご参照ください。
　数二８■１５■■数三９　のように､数符を省略する書き方は避けた方がよいと思います。
　なお、日盲社協点字出版部会発行の「点字出版物製作基準」p19～p20 にも索引の書き方がありますので、参考にされるとよいと思います。
　点訳書の場合、「指導者ハンドブック第５章編」p71 にあるように、その必要性を判断しますが、必要があると考えて索引を点訳する場合は、点字の検索性を考慮し、巻数・ページ数だけでなく、行数も入れた方が親切ではないでしょうか。

《Ｑ84》
　小説の最後に、内容についての注意書きが掲載されているものがあります。
　『この本には、暴力的な言葉が使用されていますが、著者の意図によりそのままの表現としています』というような文章です。
　この場合、この文章を入れる場所は、原本通り最後でよいのでしょうか？
　それとも配慮として、１巻目の最初に入れたり、掲載する場所を変更したほうがよいのでしょうか？

《Ａ》
　ご質問のような内容についての書き方には特にルールはありません。
　このような注意が、原本の最後に書かれているときもありますし、前書きの最後や、表紙の裏に書かれていたり、凡例として書かれていることもあります。
　原本通りの位置に入れることも一つの方法だと思いますが、その本全体を読む上での注意喚起のような内容であると判断すれば、原文の位置にかかわらず、第１巻の目次の次に入れるのが親切ではないかと思います。

参考資料
《Ｑ85》
　古文の点訳のテキストで、お勧めがございましたら教えていただければと思います。

《Ａ》
古文の点訳のテキストは現在のところ、「表記法」「てびき」「ハンドブック」以外には、把握しておりません。

《Ｑ86》
単位記号について質問いたします。データの量やコンピュータの記憶装置の大きさを表す単位である「MB（メガバイト）」についてですが、「点字表記辞典第６版」に「バイト」のところで、すべて大文字で「MB」（メガバイト）と記載されているのですが、「てびき」ｐ31 のコラムの「単位記号は大文字・小文字に注意！」のところで、「単位名が人名に由来するものは、大文字符を用いるので注意が必要です」とありますが、「バイト, Byte」は人名に由来していないのではないかと思うので、B（バイト）のところは小文字ではないかと思うのですが、いかがでしょうか？

《Ａ》
確かに、「てびき」のコラムに紹介しましたように、人名に由来する単位名は、大文字を用いるのですが、大文字の単位名がすべて人名に由来するわけではありません。特に、最近よく用いられる情報処理関係の単位は、大文字が目立ちます。
Ｔ（テラ）、Ｇ（ギガ）、Ｍ（メガ）、Ｋ（ケー）、Ｂ（バイト）などは、人名に由来するわけではありませんが、大文字になります。
「指導者ハンドブック第５章編」p82 も参考にしてください。
なお、ＭＢ、ＧＢ、ＴＢの時には、二重大文字符ではなく、一つ一つに大文字符を付けます。
１ＭＢ　＝　数１外大M大Ｂ　　となります。

《Ｑ87》
BMI の単位の表し方について教えてください。
単位は“kg/m²”。
BMI＝ 体重 kg ÷（身長 m）²
と書かれています。
m²（mの２乗）を　mキ としてしまったところ、触読者から、「平方メートル？」と読まれてしまいました。
面積ではなく、身長のｍ２乗　になります。
mキ としてもいいのでしょうか？それとも別な表し方があるでしょうか？

《Ａ》
単位としては、mキ で正しいと思いましたが、念のため日本点字委員会点字科学記号専門委員の方に確認しました。
mキ の書き方になりますとのことです。
今回の場合は、次の行に身長のｍの２乗と言うことが書いてあるので、誤解されること

はないと思います。

　誤解を受ける恐れがある場合は、身長の２乗であることを点訳者挿入符で断った方が良いと思います。